

成田市スポーツ振興マスタープラン (素案)

**令和3年3月
成田市**

は じ め に

市長コメント掲載

市長写真

令和3年3月

成田市長 小泉 一成

スポーツ健康都市宣言

わたくしたちは、スポーツを愛し、スポーツを通して健康な心と体を育み、明るく豊かな成田市を築くため、ここにスポーツ健康都市を宣言します。

1. スポーツに親しみ、健康な心と体をつくりましょう。
1. スポーツを楽しみ、友情とふれあいの輪をひろげましょう。
1. スポーツを愛し、明るく豊かなまちを築きましょう。
1. スポーツを通し、世界の人々と手をつなぎましょう。

平成 16 年 11 月 7 日 宣言

目 次

第1章 計画の基本的概要

- 1 計画策定の趣旨……………P 3
- 2 計画の性格・位置づけ……………P 3
- 3 計画の期間……………P 4
- 4 計画における「スポーツ」の定義……………P 4

第2章 成田市のスポーツを取り巻く現状と課題

- 1 国の動向……………P 7
- 2 県の動向……………P 9
- 3 成田市の状況……………P10
- 4 市民意識調査等からみる成田市の現状……………P17
- 5 前期計画（第2次計画）の評価……………P25

第3章 計画の基本構成

- 1 基本理念……………P35
- 2 計画の目標……………P36
- 3 計画の施策体系図……………P37
- 4 数値目標……………P38

第4章 具体的な施策展開

- 1 スポーツで、人をつなぐ……………P41
 - （1）スポーツにふれあう機会の創出……………P41
 - （2）ライフステージに応じたスポーツ推進……………P42
 - （3）スポーツを通じた人と人との交流……………P44
- 2 スポーツで、地域がつながる……………P45
 - （1）スポーツを通じたコミュニティ活動の促進……………P45
 - （2）スポーツを身近に楽しめる環境づくり……………P46
 - （3）市民のスポーツ意識の醸成……………P48
- 3 スポーツで、未来へつなげる……………P49
 - （1）スポーツツーリズムの推進……………P49
 - （2）スポーツを通じた共生社会の実現……………P51
 - （3）トップスポーツの推進……………P53

第5章 計画の推進に向けて

- 1 推進体制……………P59
- 2 計画の進行管理……………P59
- 3 各主体の役割……………P60

資料編

第 1 章

計画の基本的概要

1. 計画策定の趣旨

少子高齢化や人口減少、グローバル化に伴い、スポーツに対する価値や期待は多様化し、スポーツの楽しみ方や政策の方向性も変化してきました。さらに、地域のコミュニケーションの希薄化が進む現代社会において、仲間づくりや、地域コミュニティの創造をはじめ、高齢者や、障がい者の社会参加を図るための手段としても、スポーツが担う役割は大きいと期待されています。

また、心身の健全な発達、健康及び体力向上につながるとともに、人生をより豊かにするなど、スポーツが持つ様々な力を生かして、地域活性化を目指す取り組みが各地で行われています。

成田市においても、平成29年（2017年）にスポーツに関する事務の所管を教育委員会から市長部局に移し、従来のスポーツ活動の促進に加え、新たな視点として、スポーツと文化、観光振興などを結び付け、スポーツによるまちづくりを分野横断的に進めていくこととしています。

平成11年度（1999年度）に「第1次成田市生涯スポーツマスタープラン」を策定、平成16年度（2004年度）にスポーツ健康都市宣言を行い、平成23年度（2011年度）には、「第2次成田市生涯スポーツマスタープラン」を策定し、市民のスポーツ活動の推進を行ってまいりました。

今回第2次成田市生涯スポーツマスタープランの改定にあたり、成田市を取り巻く環境や、社会情勢などの変化を捉え、年齢、性別、国籍、障がいの有無などに関わらず、誰もが生涯にわたって気軽にスポーツに親しみ楽しめるまちを目指し、新たな計画を策定するものです。

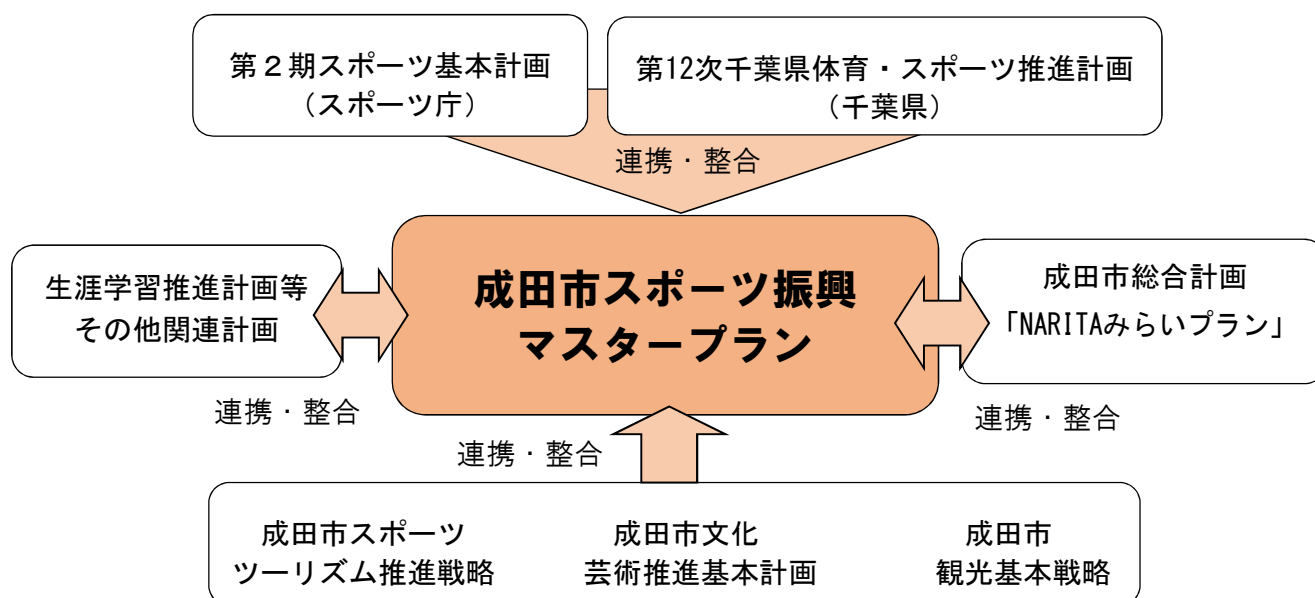
なお、本市のスポーツに関する事業が教育委員会から市長部局へと移管後、初めての改定となりますことから、計画名称を新たに「成田市スポーツ振興マスタープラン」へと変更し計画の推進を図ってまいります。

2. 計画の性格・位置づけ

本計画は、スポーツ基本法第10条第1項に規定する地方スポーツ推進計画として位置づけられるものです。

国の「第2期スポーツ基本計画」や、千葉県の「第12次千葉県体育・スポーツ推進計画」、市の上位計画である成田市総合計画「NARITAみらいプラン」等、関連計画と整合を図った上で、本市の新たなスポーツ振興の指針となる計画として策定します。

また、本市特有の地域資源を生かしたスポーツツーリズム（スポーツを通じた誘客や観光振興）推進の実現に向けた「成田市スポーツツーリズム推進戦略」と連携を図ります。



3. 計画の期間

本計画の期間は、令和3年度（2021年度）から令和9年度（2027年度）の7年間です。
本市の総合計画である、「N A R I T Aみらいプラン」を上位計画とし、他計画と期間の整合を図りながら、スポーツ、文化及び観光と相互一体となって取り組みを進めてまいります。
なお、策定後、3年を目途に中間の意識調査を行います。

H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
(2016)	(2017)	(2018)	(2019)	(2020)	(2021)	(2022)	(2023)	(2024)	(2025)	(2026)	(2027)	(2028)	(2029)	(2030)
成田市総合計画「N A R I T Aみらいプラン」基本構想（12年間）														
第1期基本計画（4年間）				第2期基本計画（4年間）				第3期基本計画（4年間）						
第2次成田市生涯学習推進計画（10年間）					第3次成田市生涯学習推進計画（5年間）									
成田市スポーツツーリズム推進戦略（計画期間無し）														
			第1次成田市文化芸術推進基本計画（5年間）					第2次成田市文化芸術推進基本計画（4年間）						
成田市観光基本戦略（5年間）						第2次成田市観光基本戦略（6年間）								
第2次成田市生涯スポーツマスタープラン（10年間）					成田市スポーツ振興マスタープラン（7年間）									

4. 計画における「スポーツ」の定義

本計画では、「スポーツ」を幅広く捉え、競技種目のみならず、散歩やジョギング、レクリエーション活動など、健康維持や仲間との交流など多様な目的で体を動かす活動についても「スポーツ」として捉えます。スポーツは文化としての身体活動を意味する広い概念であり、各人の適性や関心に応じて行うことができ、一部の人のものではなく「みんなのもの」です。

また、スポーツの関わり方として、スポーツを「する」ことだけでなく、「みる」「ささえる」こともスポーツ振興に向けた重要な要素として捉えます。

スポーツを「する」ことで楽しさや喜びを得られ、さらに、継続することで勇氣、自尊心、友情などの価値を実感するとともに、自らも成長し、心身の健康増進や生きがいに満ちた生き方を実現していくことができます。スポーツを「みる」ことで、アスリートの姿に感動し、人生に活力が得られ、スポーツを「ささえる」ことで、多くの人々が交わり共感し合うことにより、社会の絆が強くなっていきます。

以上のように、市民には、「する」「みる」「ささえる」といった様々な形で積極的にスポーツに参加し、スポーツを楽しみ、喜びを得ることで、それぞれの人生を生き生きとしたものとするを期待します。

第2章

成田市のスポーツを取り巻く 現状と課題

1. 国の動向

国では、平成23年（2011年）8月に、スポーツに関する施策を総合的かつ計画的に推進し、もって国民の心身の健全な発達、明るく豊かな国民生活の形成、活力ある社会の実現及び国際社会の調和ある発展に寄与することを目的としてスポーツ基本法が施行されました。

平成24年（2012年）3月に、スポーツ基本法の理念を具現化し、スポーツ政策の具体的な方向性を示す「スポーツ基本計画」が策定されました。

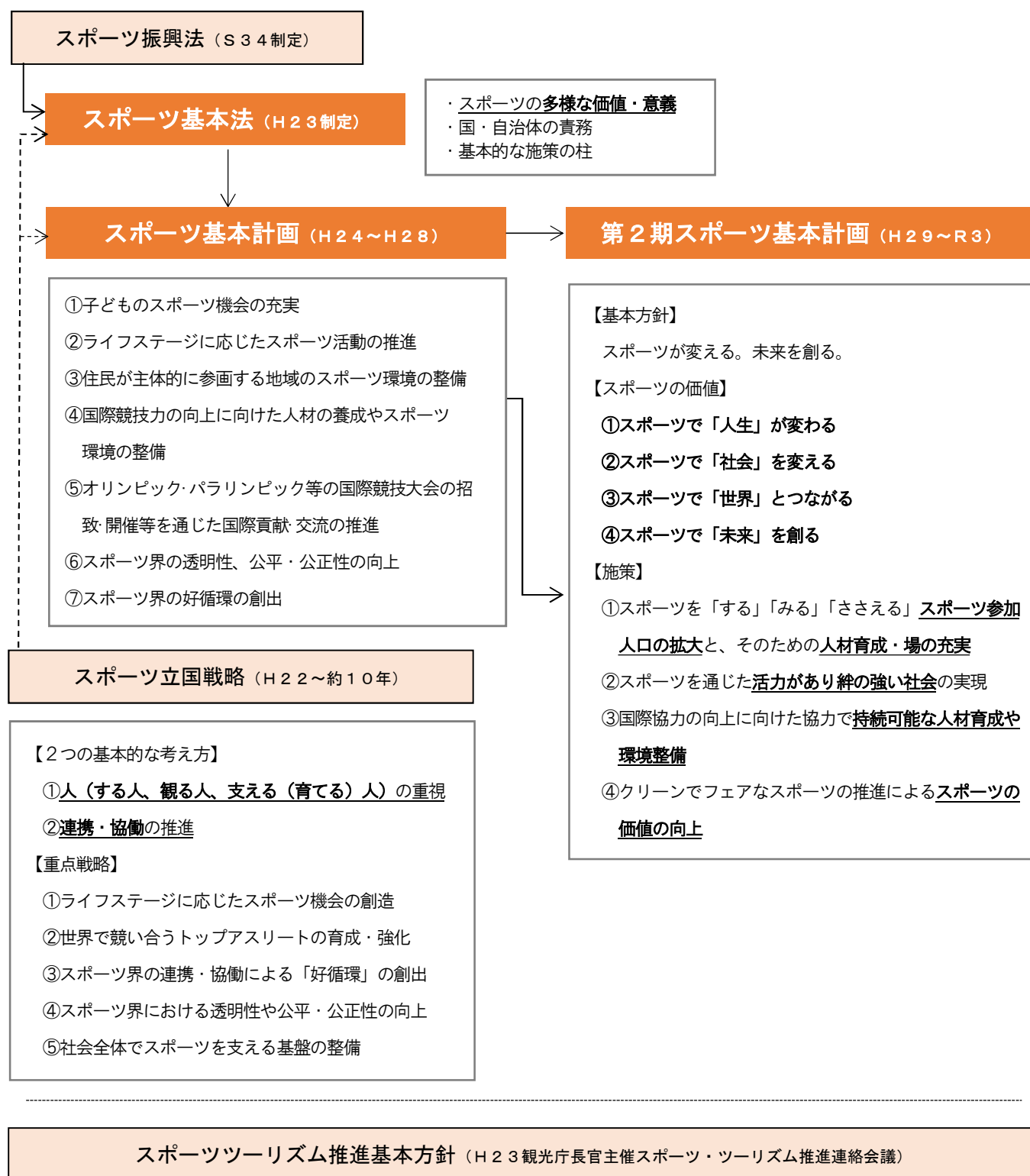
平成27年（2015年）10月には、スポーツ基本法の趣旨を踏まえ、スポーツを通じ、国民が生涯にわたり心身ともに健康で文化的な生活を営むことができるスポーツ立国の実現を最大の使命として「スポーツ庁」が設置されました。

そして、平成29年（2017年）3月には、第1期から5年間の計画期間を経て、「第2期スポーツ基本計画」が策定されました。この計画では、「スポーツ参画人口」を拡大し、スポーツ界が他分野との連携・協働を進め、「一億総スポーツ社会」の実現に取り組むことを、基本方針としています。

その後、2019年（令和元年）のラグビーワールドカップ日本大会、2021年（令和3年）の東京オリンピック・パラリンピックなど、世界的な大規模スポーツイベントの開催が決定し、国民のスポーツへの関心がますます高まっています。



出典：スポーツ庁「第2期スポーツ基本計画」



2. 県の動向

千葉県では、平成29年（2017年）3月に、これからの千葉県の体育・スポーツのあるべき姿を展望し、「全ての県民が多面にわたるスポーツの価値を基盤にしながら、健康で活力ある生活を送り、互いに支え合う『スポーツ立県ちば』」の一層の推進を目指すものとして、「第12次千葉県体育・スポーツ推進計画」を策定しました。

第12次千葉県体育・スポーツ推進計画（H29～R3）

【基本理念】

「スポーツ立県ちば」の一層の推進を目指して

全ての県民が多面にわたるスポーツの価値を基盤にしながら、健康で活力ある生活を送り、互いに支え合う県民の姿

【リンク】

リンクA「子どもの体力向上と学校体育活動の充実」

リンクB「運動・スポーツを楽しむための健康・体力づくり」

リンクC「スポーツ環境の整備」

リンクD「競技力の向上」

リンクE「東京オリンピック・パラリンピックを契機としたスポーツの推進」

リンクF「スポーツによる地域づくりの推進」



出典：千葉県「第12次千葉県体育・スポーツ推進計画」

3. 成田市の状況

(1) 市の動向

本市においては、平成12年度（2000年度）より、成田市生涯スポーツマスタープランを策定し、計画の進捗状況を注視しながら、スポーツの振興に努めてまいりました。

第1次計画では、平成12年度（2000年度）から平成22年度（2010年度）までの11年を計画期間とし、市民一人ひとりが自らの価値観に基づいて、自主的にスポーツを行い、生涯にわたって、個性を発揮しつづけると同時に、スポーツ活動を通じてコミュニティの育成を図り、住民相互の連帯感を高めることのできる「まち」を目指しました。

第1次成田市生涯スポーツマスタープラン（H12～H22）

【基本理念】

個性 きらめく スポーツタウン

【計画の目標】

「スポーツで楽しむ」環境づくり

「スポーツで健康になる」環境づくり

「スポーツでふれあう」環境づくり

「スポーツで個性を伸ばす」環境づくり

【数値目標】

週1回以上スポーツ実施率	34.2% (H10) ⇒65% (H22)
クラブ加入率	24.5% (H10) ⇒40% (H22)
児童・生徒の運動能力章合格率	16.6% (H11) ⇒25% (H22)
スポーツ行事運営参加率	40.9% (H10) ⇒50% (H22)
成田市スポーツリーダーバンク登録者数	32人 (H12) ⇒500人 (H22)

第2次計画では、平成23年度（2011年度）から令和2年度（2020年度）までの10年を計画期間とし、市民一人ひとりが主体的にスポーツを楽しみ、スポーツで健康になり、スポーツを通じて地域とふれあい、スポーツでまちづくりをしていけるようなスポーツライフの実現を目指しました。

第2次成田市生涯スポーツマスタープラン（H23～R2）

【基本理念】

スポーツで いきいき健康 まちづくり

【計画の目標】

スポーツで健康になろう～スポーツをおこなう機会の創出～

スポーツで楽しもう～スポーツを楽しむ場の醸成～

スポーツでふれあおう～スポーツを通じた交流の促進～

スポーツでまちを築こう～スポーツ活動の基盤の充実～

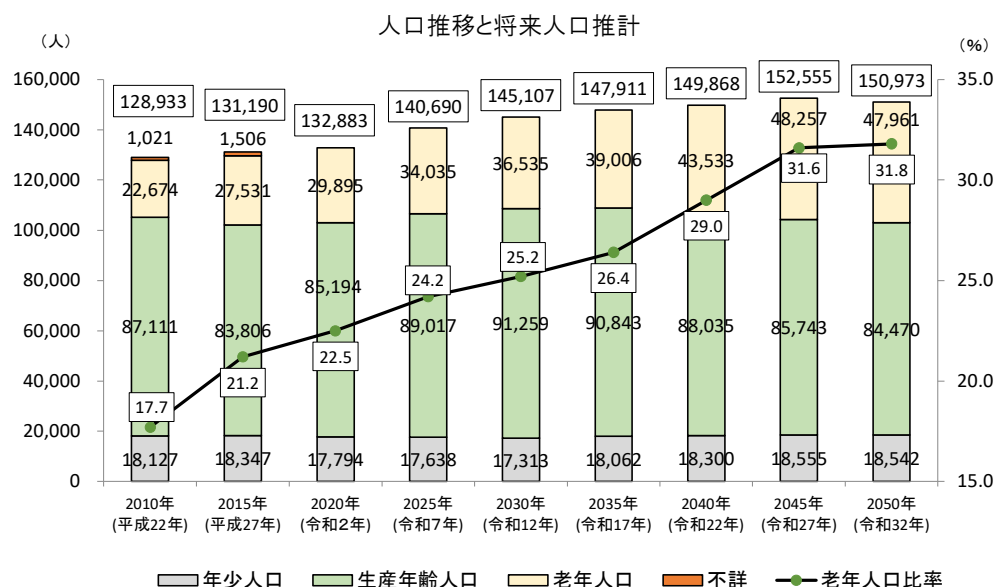
【数値目標】

週1回以上スポーツ実施率	36.8% (H21) ⇒50% (H32)
児童・生徒の運動能力証合格率	27.0% (H21) ⇒30% (H32)
スポーツイベント参加率	32.6% (H21) ⇒50% (H32)
総合型地域スポーツクラブの数	0 (H23) ⇒1クラブ以上 (H32)

(2) 人口推移と将来人口推計

令和3年(2021年)3月現在、本市の人口は13万人強となり、県内では、14番目の規模となります。

また、総人口は令和27年(2045年)まで増加を続けると推計しており、65歳以上の老年人口比率についても、全国的には低い数値で推移しているものの増加傾向にあります。



資料：成田市総合計画「NARITAみらいプラン」第2期基本計画

(3) スポーツ実施率

スポーツ実施率※1は3割強という結果であり、ライフステージ別でみると、国や県と比べて特に若い方の実施率が如実に低いことが伺えます。

なお、国、千葉県は調査方法や選択肢が異なるため、参考値として掲載しています。

	全国※2	千葉県※3	成田市※4
全体	53.5%	62.5%	33.7%
20歳～39歳	45.7%	58.2%	19.4%
40歳～59歳	47.0%	58.7%	29.8%
60歳以上	67.8%	86.5%	42.2%

※1 運動やスポーツを『週1日以上実施』した人の割合のことです。この調査での「スポーツ」とは、野球や陸上競技などの一般的なスポーツのほかに、散歩・ラジオ体操・ハイキングなども含みます。

※2 スポーツ庁「スポーツの実施状況等に関する世論調査」(令和元年度)において、「この1年間に行った運動・スポーツの日数」ごとの回答者数を、前問「この1年間に行った運動・スポーツの種目」で「運動やスポーツはしなかった」「わからない」と答えた者を含めた全回答者で除した割合

※3 第12次「千葉県体育・スポーツ推進計画」の点検評価・総括(令和元年度)において、この1年間に運動(軽い体操やウォーキング※を含む)やスポーツをどの程度行いましたか。(※自転車の利用、階段昇降、散歩、ぶらぶら歩き、通勤時の一駅歩きなども含む)という質問に対して「週に3回以上」「週に2回」「週に1回」と回答した人の割合

※4 成田市スポーツに関する市民意識調査(令和元年度)において、「あなたは、普段どれくらいスポーツをしていますか。」という質問に対して「ほぼ毎日」「週に3回以上」「週に1、2回」と回答した人の割合(詳細は18P)

(4) 成田市のスポーツに関する近年の主な取り組み

近年では、スポーツツーリズムの推進、大規模大会の誘致、スポーツをきっかけとした共生社会実現のためのパラスポーツの体験や普及、スポーツ団体の育成、スポーツ施設整備の観点から以下のような事業に取り組んできました。

① スポーツツーリズム推進に係る取り組み (アメリカ合衆国、アイルランドとのホストタウン事業)

本市は、アメリカ合衆国、アイルランドを交流の相手方とするホストタウンに登録され、人的・経済的・文化的な相互交流を図ることを目的に様々な事業に取り組んできました。

平成30年度(2018年度)にはアイルランドパラ水泳チームが本市を拠点にトレーニングキャンプを実施し、そのキャンプ期間中にはボランティアによる日本文化の体験の他に、特別支援学校や市内の小学校への学校訪問、市内中学校水泳部の生徒を対象とした水泳教室が開催されました。

また、アメリカ陸上チームナショナルコーチとトップアスリートを招いての陸上クリニックも平成29年度(2017年度)より毎年度実施されており、毎回、たくさんの方々から参加希望をいただくイベントとなっております。

小・中学生陸上クリニック、アイルランドパラ水泳チームの水泳教室の様子



② 大規模大会誘致に係る取り組み

(第16回 WBSC 世界女子ソフトボール選手権大会、

2019年女子レスリングワールドカップ成田大会の開催)

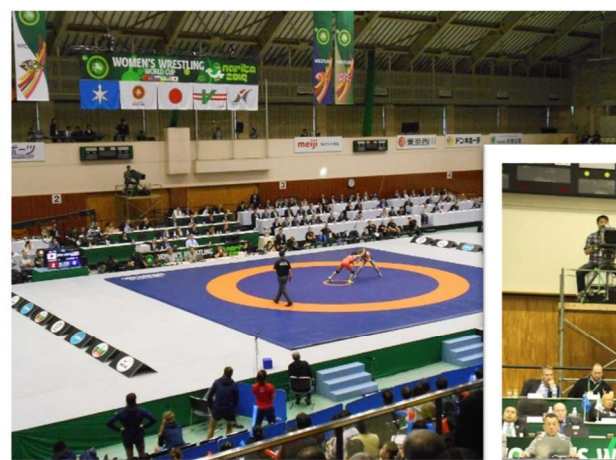
トップスポーツ観戦機会の充実の観点から、世界・全国規模の大会やプロスポーツの試合の誘致、大規模スポーツイベント等の誘致に取り組んでまいりました。

平成30年(2018年)には、8月2日から8月12日までの11日間、成田市のナスパ・スタジアムを含む県内4会場で、第16回 WBSC 世界女子ソフトボール選手権大会が開催されました。本市においては、開幕戦となる日本戦も開催され、世界中のソフトボールファンにより大変盛り上がりを見せました。

また、令和元年(2019年)には、11月16日・17日に、成田市の中台運動公園体育館にて2019年女子レスリングワールドカップ成田大会が開催されました。

第16回 WBSC 世界女子ソフトボール選手権大会

2019年女子レスリングワールドカップ成田大会の様子



③ スポーツをきっかけとした共生社会実現のためのパラスポーツ体験や普及に係る取り組み
(障がい福祉講演会および障がい者スポーツ体験会、ボッチャ体験教室)

本市は、スポーツをきっかけとして障がいへの理解を深め、心のバリアフリー化を図り、共生社会の実現を目指した取り組みを進めており、令和元年（2019年）8月に、アイルランドパラリンピック委員会との交流をきっかけとして、千葉県内で初めてとなる、共生社会ホストタウンとして登録されました。

その他の取り組みとして、平成31年（2019年）3月には、東京ガス株式会社の協力のもと、「共生社会実現への道ー東京2020パラリンピックに向けてー」をテーマに、講演会とパラスポーツの体験会を開催し、たくさんの方々にご参加いただいています。

また、小学校・中学校においては、ボッチャやパラテコンドーの体験学習を実施するなど、パラスポーツの普及啓発に努めています。

障がい福祉講演会および障がい者スポーツ体験会、ボッチャ体験教室の様子



④ 総合型地域スポーツクラブに係る取り組み
(エンジョイ中台S.S.C、総合型NPO法人成田スポーツアカデミー)

総合型地域スポーツクラブは、国において、平成7年度(1995年度)から育成が開始され、平成29年(2017年)7月には、創設準備中を含め全国で3,580クラブが育成され、それぞれの地域において、スポーツの振興やスポーツを通じた地域づくりなどに向けた多様な活動を展開し、地域スポーツの担い手としての役割や地域コミュニティの核としての役割を果たしています。

本市においては、「エンジョイ中台S.S.C」が、平成29年(2017年)3月に、成田市で初めての総合型地域スポーツクラブとして設立されました。生涯にわたって誰もが気軽にスポーツ・レクリエーション活動に参加することができる環境づくりを支援し、健康づくり・仲間づくりを広げることを目指して活動しており、毎月、健康体操やフットサルなどのプログラムが行われています。

「総合型NPO法人成田スポーツアカデミー」は、令和2年(2020年)5月に本市2番目の総合型地域スポーツクラブとして設立されました。野球やサッカーの指導からバルシューレ・スポーツ鬼ごっこ・ヨガなど、多種多様なスポーツ事業を実施しており、スポーツでの地域活性化を図っています。

総合型地域スポーツクラブの活動の様子



⑤ 施設整備に係る取り組み

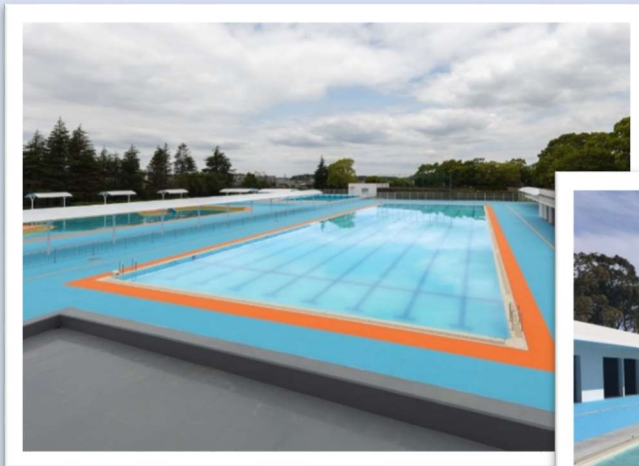
(中台運動公園水泳プール、大谷津運動公園野球場・スケートボードパーク)

本市は、テニスコート、プールから、パークゴルフ場など、各地域に様々なスポーツ施設を有し、計画的な整備、運営を図ってきました。

特に、近年での大きな整備事業として、中台運動公園水泳プールは、管理棟バリアフリー化の対応、50mプールの可動床方式への変更を行うなどの改築を行い、令和2年度(2020年度)に新たなプールとして完成しました。

大谷津運動公園内には、平成29年度(2017年度)に初心者から中級者まで楽しめる様々なセクションが備えられたスケートボードパークが新たにオープンしました。また、令和元年度(2019年度)には、オーロラビジョンLEDを搭載した大型カラーディスプレイのスコアボードへの改修を行うなど、野球場がリニューアルオープンしました。

中台運動公園水泳プール、大谷津運動公園野球場・スケートボードパークの様子



4. 市民意識調査等からみる成田市の現状

(1) 調査の目的

この調査は、新たなスポーツ振興マスタープラン策定の基礎資料として、市民のスポーツ活動の状況と意見を伺うために行いました。

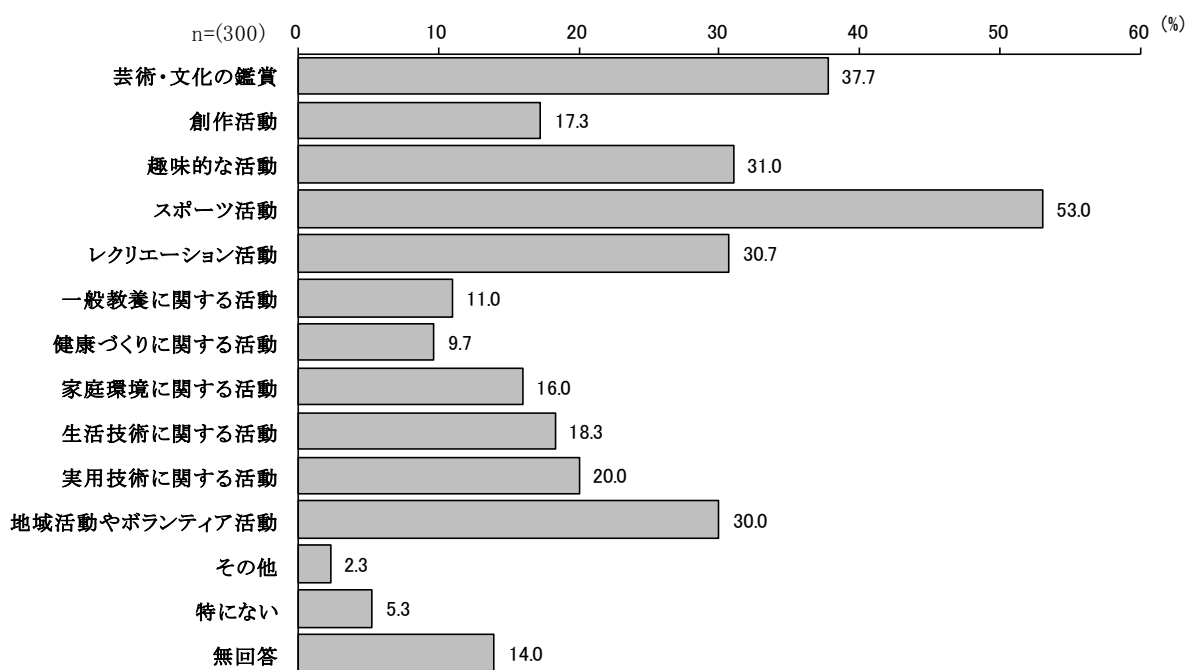
(2) 調査の概要

調査地域	成田市全域
調査回答者	一般市民調査：市内在住の16歳以上の市民 1,000人 小中学生調査：市内の小中学生 1,000人
抽出方法	無作為抽出
調査方法	郵送配布、郵送回収（無記名）
調査期間	令和元年（2019年）12月13日（金）～12月27日（金）
回収結果	有効回収数793件（有効回収率39.6%）
	【一般】有効回収数300件（有効回収率30.0%）
	【小中学生】有効回収数493件（有効回収率49.3%）

(3) 主な調査結果

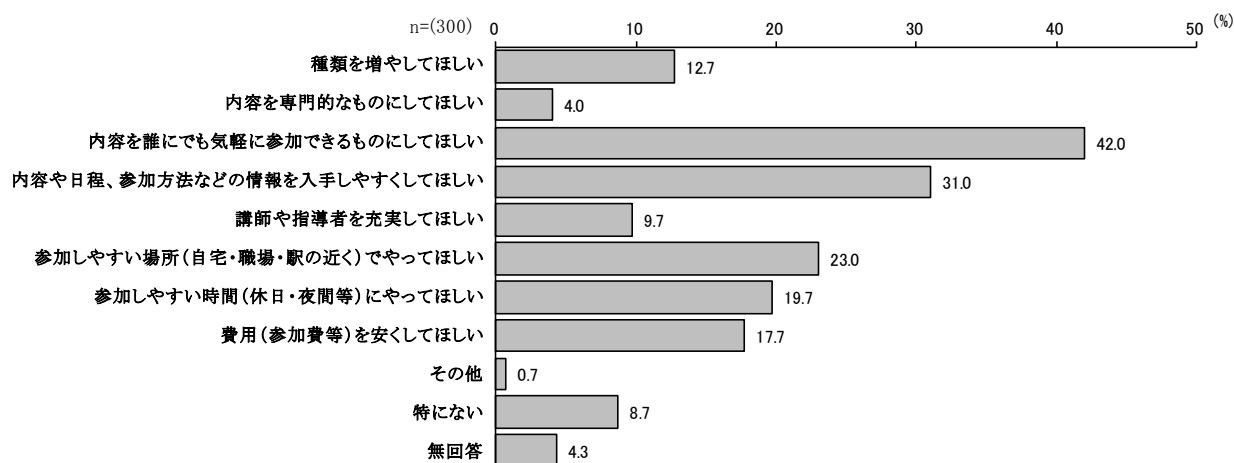
①行っている（行っていた）活動、やってみたい活動（一般調査）

「スポーツ活動」（53.0%）が唯一半数を超えています。



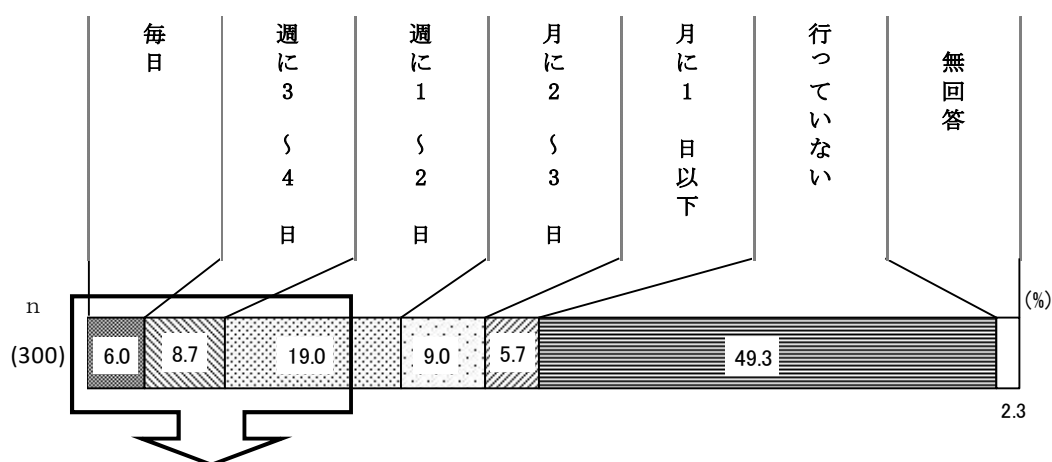
②学習や文化・スポーツ活動の推進事業に望むこと（一般調査）

「内容を誰にでも気軽に参加できるものにしてほしい」(42.0%) が4割を超えて特に高く、次いで「内容や日程、参加方法などの情報を入手しやすくしてほしい」(31.0%) が3割を超えています。



③現在のスポーツ実施頻度（一般調査）

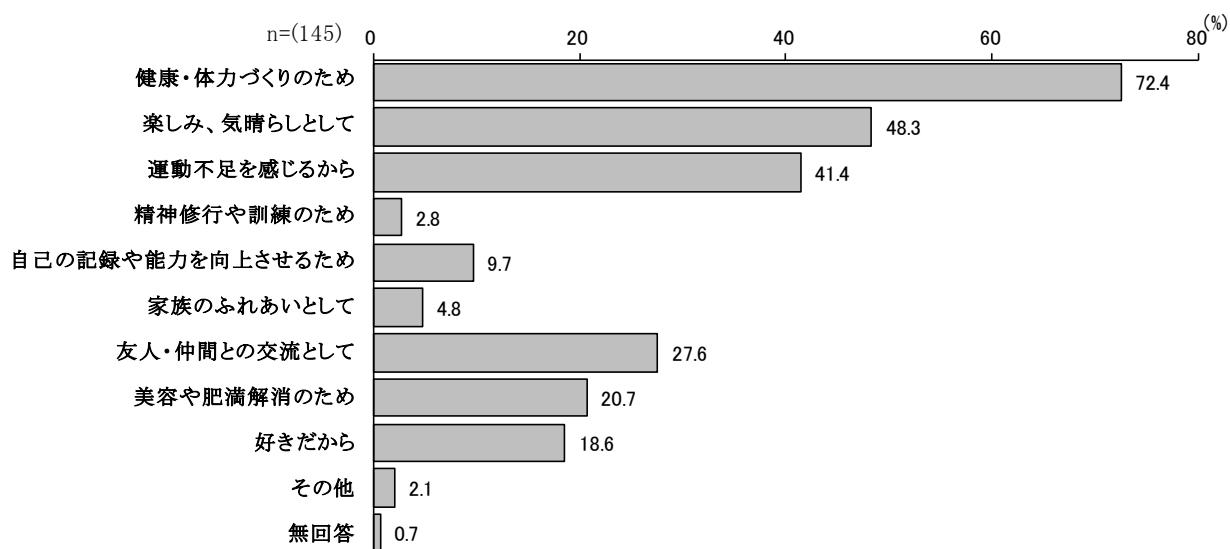
ほぼ半数が「行っていない」(49.3%) と回答している。行っている中では、「週に1～2日」が19.0%で最も高くなっています。



スポーツ実施率=33.7%
 （週に1日以上スポーツをしている人の割合）

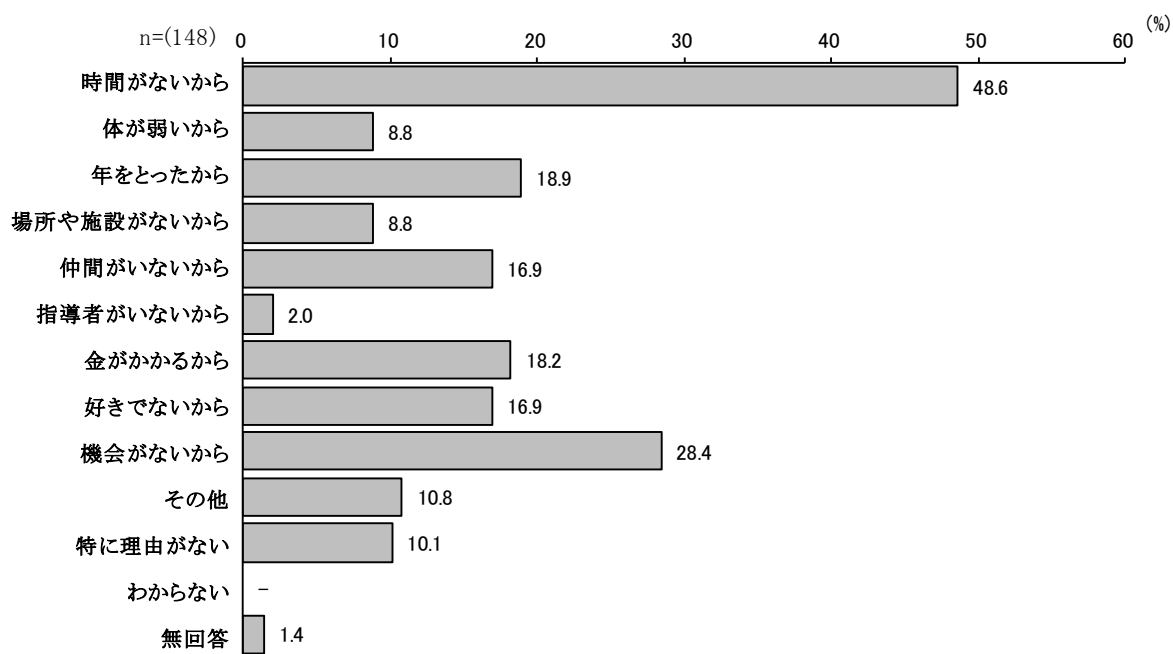
④スポーツを行う主な理由（一般調査）

「健康・体力づくりのため」が72.4%で特に高くなっています。次いで「楽しみ、気晴らしとして」（48.3%）と「運動不足を感じるから」（41.4%）が4割台となっています。



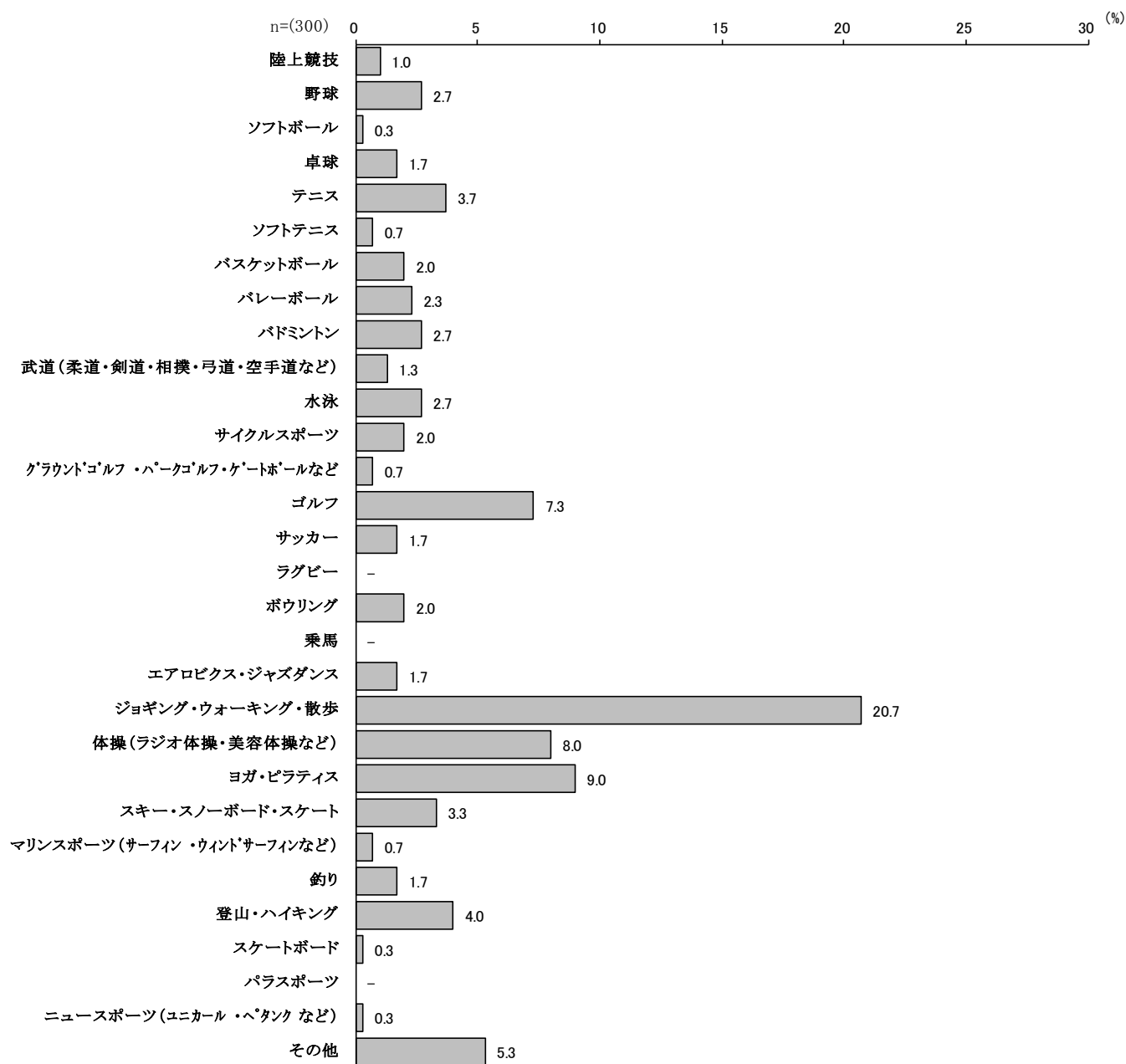
⑤スポーツを行わない主な理由（一般調査）

「時間がないから」（48.6%）が半数近くを占め、次いで「機会がないから」（28.4%）が3割近くとなっています。



⑥現在行っているスポーツ（一般調査）

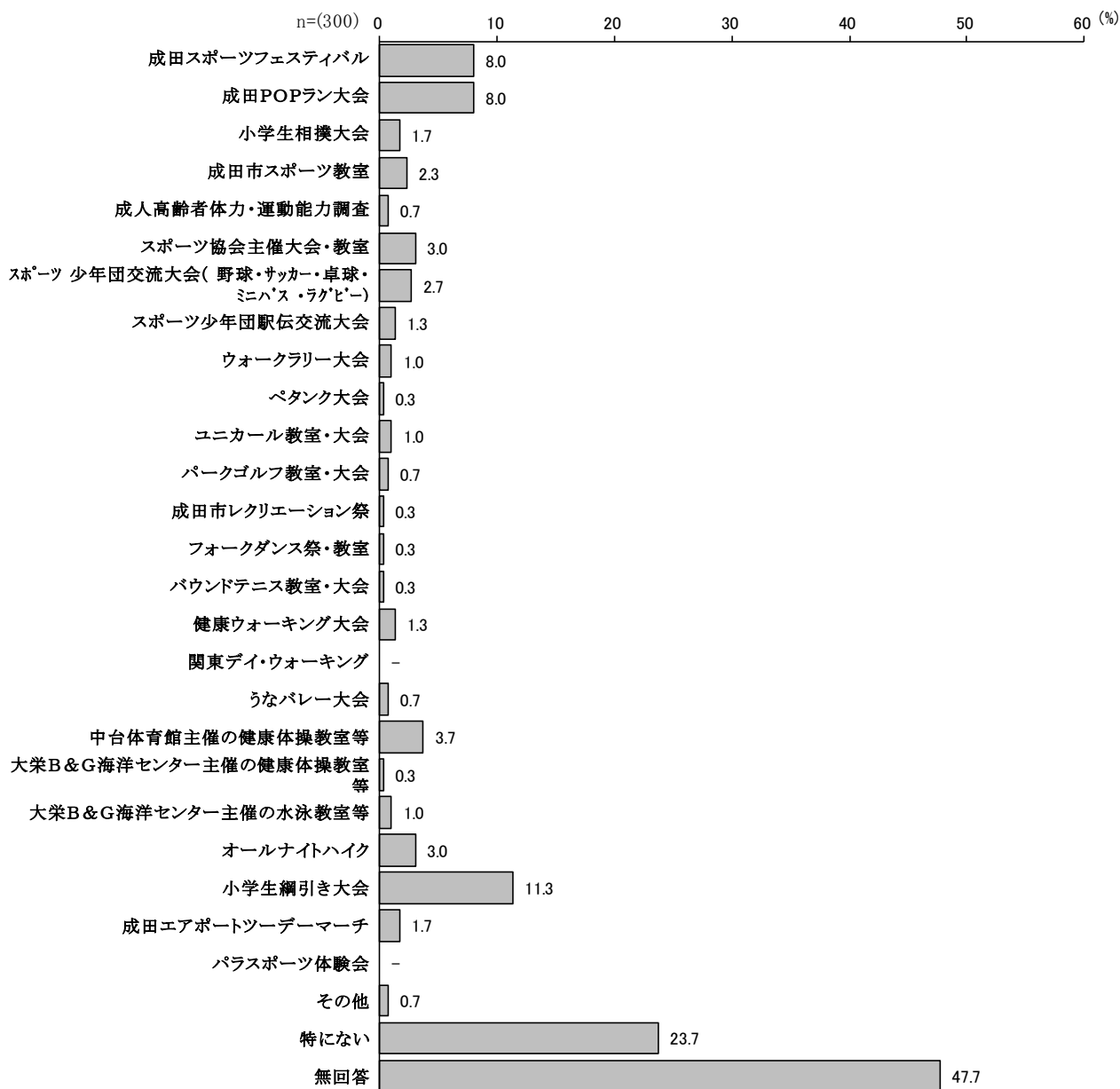
「ジョギング・ウォーキング・散歩」（20.7%）が唯一2割台で高く、「ヨガ・ピラティス」（9.0%）、「体操（ラジオ体操・美容体操など）」（8.0%）、「ゴルフ」（7.3%）が次いでいます。



⑦参加したことがある行事（一般調査）

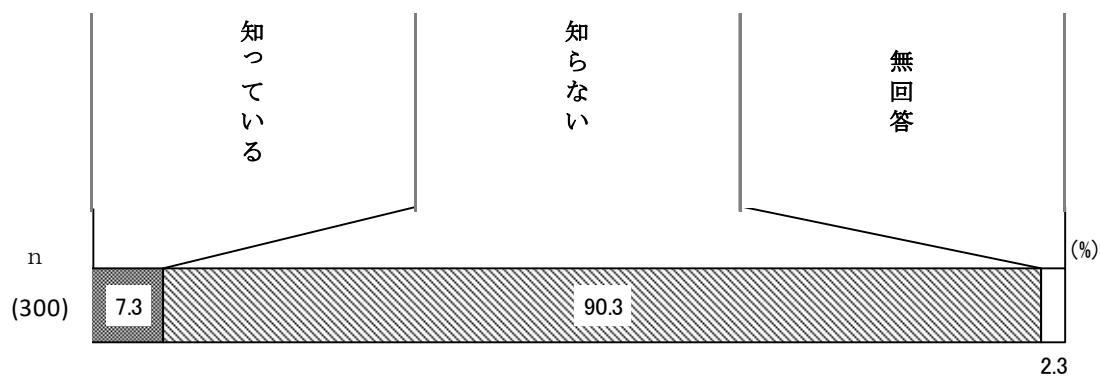
全体から「特にない」と無回答を除いた28.6%が何らかの行事に参加しています。

「小学生綱引き大会」(11.3%) が最も高く、「成田スポーツフェスティバル」(8.0%) と「成田POPラン大会」(8.0%) がこれに次いでいます。



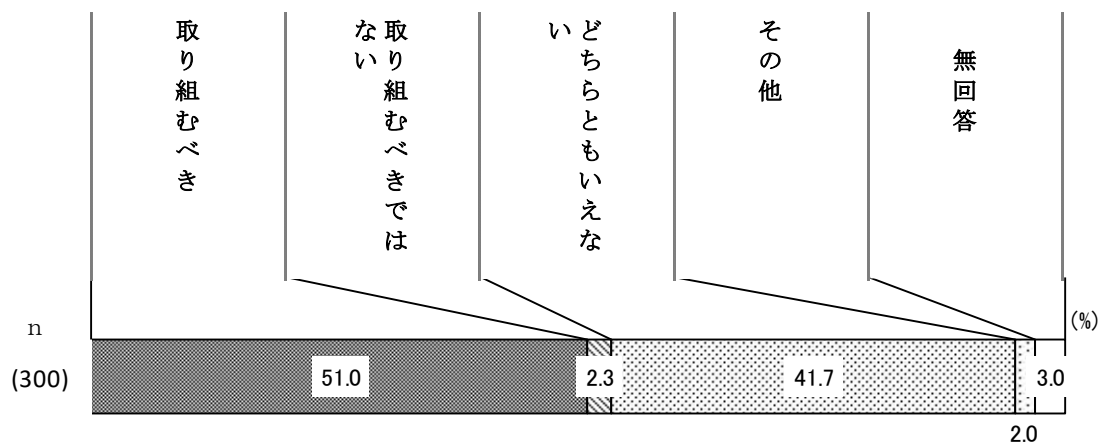
⑧スポーツツーリズムの認知状況（一般調査）

「知らない」（90.3%）が9割を超えています。



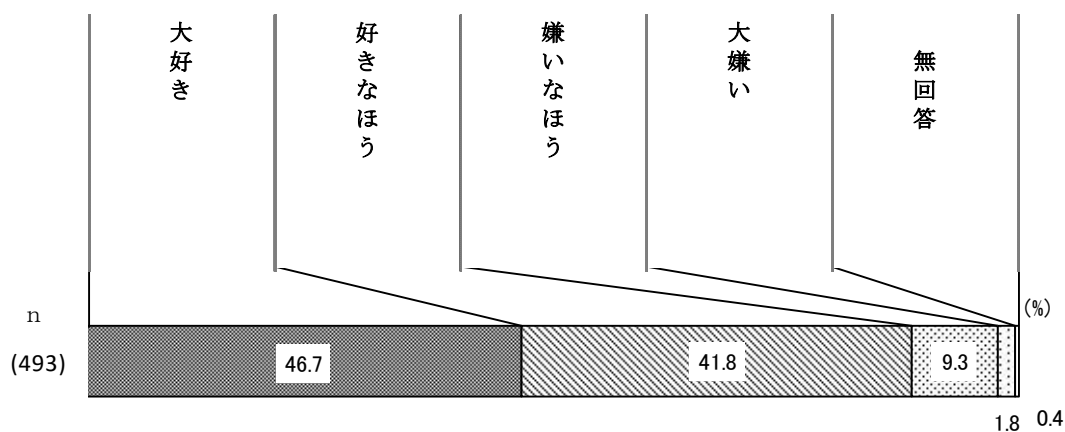
⑨市がスポーツツーリズムを推進することへの考え（一般調査）

「取り組むべき」（51.0%）が半数を超え、「取り組むべきではない」（2.3%）を大きく上回っています。



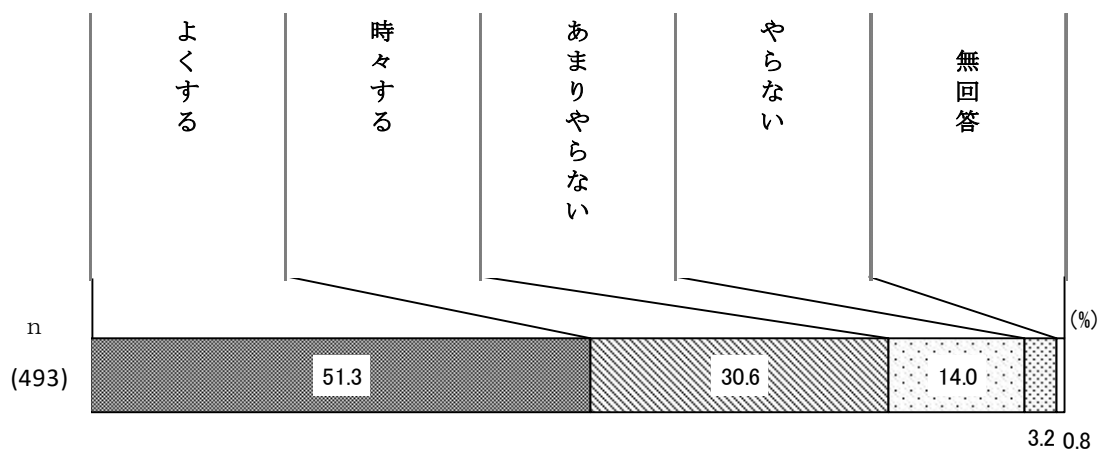
⑩遊びやスポーツが好きか（小中学生調査）

「大好き」が46.7%、「好きなほう」が41.8%で、両者を合わせた『好き』は88.5%を占めています。



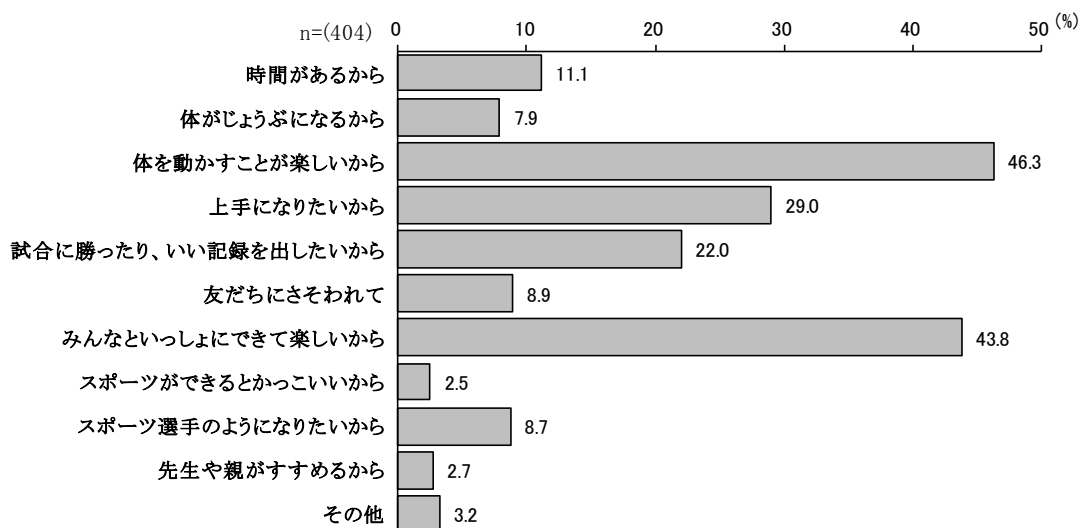
⑪学校の体育時間以外の遊びやスポーツ実施状況（小中学生調査）

「よくする」(51.3%) が半数以上となっており、これに「時々する」(30.6%) を加えた『する』は81.9%となっています。



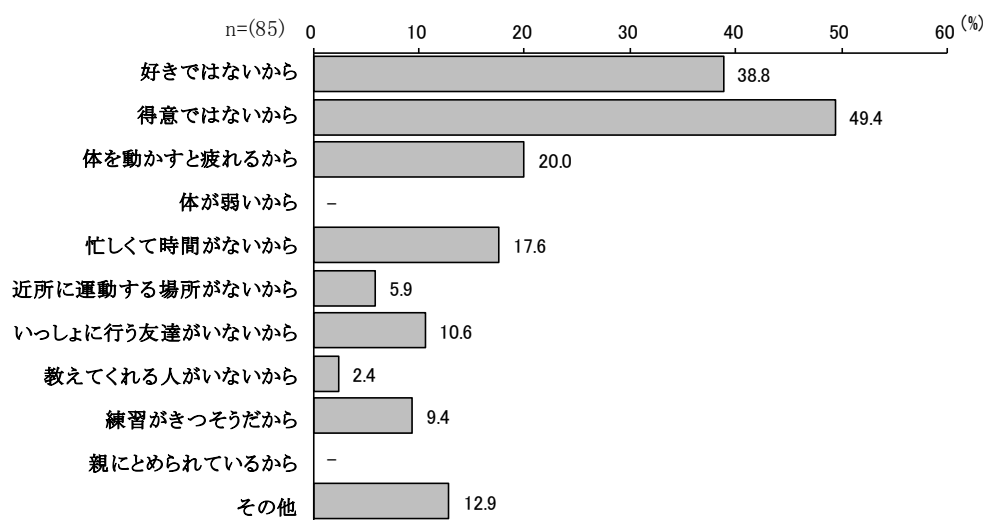
⑫遊びやスポーツを行う理由（小中学生調査）

「体を動かすことが楽しいから」（46.3％）と「みんなといっしょにできて楽しいから」（43.8％）の2つが4割台で高くなっています。



⑬遊びやスポーツを行わない理由（小中学生調査）

「得意ではないから」が49.4％で最も高く、以下、「好きではないから」（38.3％）、「体を動かすと疲れるから」（20.0％）、「忙しくて時間がないから」（17.6％）と続いています。



5. 前期計画（第2次計画）の評価

第2次計画では、基本理念の基に、数値目標及び基本方針を設定し、様々なスポーツ施策を行ってまいりましたが、計画の進捗及び市民意識調査の結果から現況について、次の通り課題を整理しました。

（1）数値目標の評価

	数値目標	計画開始時	中間値	計画終了時	目標値
①	週に1日以上スポーツをしている人の割合	36.8% (平成21年度)	33.8% (平成26年度)	33.7% (令和元年度)	50%
②	児童生徒の運動能力証合格率	27.0% (平成21年度)	29.1% (平成26年度)	25.1% (令和元年度)	30%
③	スポーツイベント参加率	32.6% (平成21年度)	24.3% (平成26年度)	28.6% (令和元年度)	50%
④	総合型地域スポーツクラブの数	0 (平成21年度)	0 (平成26年度)	2クラブ (令和2年度)	1クラブ以上

①週に1日以上スポーツをしている人の割合について

＜スポーツ実施率＞

平成21年度（2009年度）から3.1ポイント微減しています。

平成21年度（2009年度）	平成26年度（2014年度）	令和元年度（2019年度）
【36.8%】	【33.8%】	【33.7%】

＜スポーツを行う理由＞

「健康・体力づくりのため」が平成21年度（2009年度）から3.0ポイント微増していますが、「楽しみ、気晴らしとして」は5.3ポイント、「運動不足を感じるから」は6.6ポイント下がっています。

	平成21年度（2009年度）	平成26年度（2014年度）	令和元年度（2019年度）
1位	健康・体力づくりのため 【69.4%】	健康・体力づくりのため 【69.9%】	健康・体力づくりのため 【72.4%】
2位	楽しみ、気晴らしとして 【53.6%】	運動不足を感じるから 【49.8%】	楽しみ、気晴らしとして 【48.3%】
3位	運動不足を感じるから 【48.0%】	楽しみ、気晴らしとして 【47.8%】	運動不足を感じるから 【41.4%】

＜スポーツによる健康・体力づくりの意向＞

スポーツによって自分の健康・体力づくりを進めたい人は、平成21年度（2009年度）から6.8ポイント下がっています。

	平成21年度（2009年度）	平成26年度（2014年度）	令和元年度（2019年度）
意向あり	【85.1%】	【81.2%】	【78.3%】
意向なし	【11.7%】	【15.5%】	【19.0%】

＜スポーツを行わない理由＞

「時間がないから」が平成21年度（2009年度）から4.1ポイント増えています。

	平成21年度（2009年度）	平成26年度（2014年度）	令和元年度（2019年度）
1位	時間がないから 【44.5%】	時間がないから 【42.8%】	時間がないから 【48.6%】
2位	機会がないから 【31.3%】	機会がないから 【28.4%】	機会がないから 【28.4%】
3位	仲間がいないから 【21.3%】	年をとったから 【17.0%】	年をとったから 【18.9%】

＜就業状況＞

働いている人が平成26年度（2014年度）から8.8ポイント増えています。

	平成26年度（2014年度）	令和元年度（2019年度）
働いている （勤め人、商業・サービス業の自営など）	【54.9%】	【63.7%】
働いていない （無職、専業主婦・主夫、学生）	【41.5%】	【32.0%】

＜行っているスポーツ＞

「ジョギング・ウォーキング・散歩」が平成21年度（2009年度）と比較して11.3ポイント下がっています。無回答（令和元年度（2019年度）からは無回答＋特にない）は平成21年度（2009年度）と比較して8.7ポイント上がっています。令和元年度（2019年度）では「ジョギング・ウォーキング・散歩」、「ヨガ・ピラティス」、「体操（ラジオ体操・美容体操など）」と、日常生活の中で気軽にできる種目が上位に上がっています。

	平成21年度 （2009年度）	平成26年度 （2014年度）	令和元年度（2019年度）
1位	ジョギング・ウォーキング・散歩 【32.0%】	ジョギング・ウォーキング・散歩 【29.0%】	ジョギング・ウォーキング・散歩 【20.7%】
2位	ゴルフ 【13.6%】	体操（ラジオ体操・美容体操など） 【10.4%】	ヨガ・ピラティス 【9.0%】
3位	スキー・スノーボード・スケート 【9.8%】	ゴルフ 【9.0%】	体操（ラジオ体操・美容体操など） 【8.0%】
無回答	【40.6%】	【45.0%】	無回答32.0%＋特にない17.3% 【49.3%】

【まとめ】

週に1日以上スポーツをしている人の割合については、11ページにも記載の通り、国・県と比較しますと、市は20歳～39歳の若い方の実施率が如実に低い結果となっており、そのことが、本市のスポーツ実施率全体の低さに影響を及ぼしていることがわかります。

さらに、本市の数値が低い原因として、「スポーツを行う理由」については、順位の変動はありますが、「健康・体力づくり」、「楽しみ、気晴らしによるリフレッシュ」、「運動不足解消」が上位に上がる傾向は変わりません。しかし、「楽しみ、気晴らしによるリフレッシュ」や「運動不足解消」を理由にスポーツをしている人の割合はこの10年で減っており、また、「スポーツによる健康・体力づくりの意向」も減っています。

このことから、健康維持をきっかけにスポーツをする人の割合が少なくなっていることが見受けられます。

併せて、「スポーツを行わない理由」は「時間がないから」という回答が増えており、「就業状況」をみると、働いている人が増加しており、仕事が忙しく、なかなかスポーツをする時間が取れない状況であることが伺えます。

また、「現在行っているスポーツ」では、ジョギングやウォーキング、散歩、ヨガ、健康体操など日常生活の中で気軽にできる種目が上位に挙がっています。この点からも、実施できる専用空間が必要な競技スポーツ等より、誰もが手軽に隙間時間で行えるような運動やレクリエーションに注目が集まっていると考えられます。

②児童生徒の運動能力証合格率について

＜子どもの休みの日の過ごし方＞

「体を動かす遊びやスポーツ」が平成21年度（2009年度）から13.4ポイント減少しています。

	平成21年度（2009年度）	平成26年度（2014年度）	令和元年度（2019年度）
1位	テレビを見る 【52.1%】	テレビを見る 【48.5%】	TVゲームやカードゲーム など 【39.4%】
2位	体を動かす遊びや スポーツ 【50.1%】	体を動かす遊びや スポーツ 【45.8%】	テレビを見る 【39.1%】
3位	TVゲームやカードゲーム など 【41.8%】	TVゲームやカードゲーム など 【37.5%】	体を動かす遊びや スポーツ 【36.7%】

＜子どもは遊びやスポーツが好きか＞

「好き」、「嫌い」どちらも平成26年度（2014年度）と比較して差はありません。

	平成26年度（2014年度）	令和元年度（2019年度）
好き（大好き＋好きなほう）	【88.6%】	【88.5%】
嫌い（大嫌い＋嫌いなほう）	【10.8%】	【11.1%】

＜子どもが学校の体育時間以外に体を動かす遊びやスポーツの頻度＞

「する」、「しない」どちらも平成26年度（2014年度）と比較して差はありません。

	平成26年度（2014年度）	令和元年度（2019年度）
する（よくする＋時々する）	【81.8%】	【81.9%】
しない（やらない＋あまりやらない）	【17.7%】	【17.2%】

＜子どもが体を動かす遊びやスポーツをしない理由＞

「得意でないから」が平成21年度（2009年度）から19.9ポイント、「好きでないから」が平成21年度（2009年度）から6.7ポイント増えています。

	平成21年度 （2009年度）	平成26年度 （2014年度）	令和元年度（2019年度）
得意でないから	【29.5%】	【37.0%】	【49.4%】
好きでないから	【32.1%】	【29.5%】	【38.8%】

＜子どもが体を動かす遊びやスポーツをするために希望するもの＞

「一緒にやれる仲間」が平成26年度（2014年度）から10.6ポイント増加しています。

	平成21年度（2009年度）	平成26年度（2014年度）	令和元年度（2019年度）
1位	気軽に利用のできる体育館 【45.0%】	気軽に利用のできる体育館 【41.6%】	気軽に利用のできる体育館 【46.5%】
2位	一年中泳げるプール 【38.6%】	一年中泳げるプール 【38.8%】	一緒にやれる仲間 【37.3%】
3位	一緒にやれる仲間 【35.5%】	一緒にやれる仲間 【26.7%】	一年中泳げるプール 【34.7%】

【まとめ】

小中学校の児童・生徒全員を対象として運動能力調査を実施し、小学5・6年生と中学生については運動能力証合格者数増加に努めてきました。

そのため、児童生徒の運動能力証合格率を令和2年度（2020年度）までに30%の割合となることを目指し、教科体育の授業改善を行いながら、教育活動全体を通し、児童生徒の体力の向上を図りました。

しかしながら、児童生徒を取り巻く社会環境の変化に加え、体力の低下、また、子どもにとって、遊ぶ「仲間」「時間」「空間」が少なくなってきました。

市民意識調査の小中学生の結果からは、「子どもの休みの日の過ごし方」について、「体を動かす遊びやスポーツ」が平成21年度（2009年度）から13.4ポイント減少し、「TVゲームやカードゲーム」、「テレビを見る」が上位に上がることとなりました。室内で遊ぶおもちゃ、ゲーム、スマートフォンなどの普及に伴い、子どもにとって「楽しい」ことが、室内でも十分に可能となり、外で体を動かして遊ぶ機会が減少していることがわかります。

また、「子どもは遊びやスポーツが好きか」では、スポーツの「好き」、「嫌い」の割合に差はありませんが、「スポーツをしない理由」を見ると「得意でない」、「好きでない」が増えており、スポーツをしない子どものスポーツに対する苦手意識が強まっていることも見受けられます。

このことから、学校以外の時間でも、児童生徒がより運動に親しみを持ち、積極的に取り組めるよう支援していく方法を今後も検討し、働きかけていく必要があります。

③スポーツイベント参加率について

＜スポーツイベント参加率＞

平成21年度（2009年度）から4.0ポイント微減しています。

平成21年度（2009年度）	平成26年度（2014年度）	令和元年度（2019年度）
【32.6%】	【24.3%】	【28.6%】

＜スポーツイベント参加意向＞

平成21年度（2009年度）から12.7ポイント減少しています。

平成21年度（2009年度）	平成26年度（2014年度）	令和元年度（2019年度）
【36.4%】	【22.2%】	【23.7%】

＜1年間のスポーツ観戦状況＞

現地でのスポーツ観戦経験は、国と比較して低くなっています。

	【国】令和元年度 (2019年度)	【成田市】令和元年度 (2019年度)
会場・現地でスポーツ観戦	【27.4%】	【23.3%】

＜子どもが体を動かす遊びやスポーツをしない理由＞

「得意でないから」が平成21年度（2009年度）から19.9ポイント、「好きでないから」が平成21年度（2009年度）から6.7ポイント増えています。

	平成21年度(2009年度)	平成26年度(2014年度)	令和元年度(2019年度)
得意でないから	【29.5%】	【37.0%】	【49.4%】
好きでないから	【32.1%】	【29.5%】	【38.8%】

【まとめ】

スポーツイベント参加率については、この10年で微減となっていますが、スポーツイベントの参加意向はこの10年で大きく減少しています。

さらに、市民意識調査の一般調査の結果からは、「スポーツ観戦経験の状況」といった視点からも市民の経験や意向が低く、スポーツイベントの参加者数の低下が推察できる結果となり、スポーツイベントに関わる意向が低下していることが原因として考えられます。

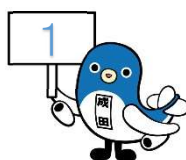
また、小中学生への調査結果から、「子どもが体を動かす遊びやスポーツを行わない理由」として、「得意でない」、「好きでない」といった消極的な理由が大きく増えていることから、参加率の減少要因として考えられます。

このことから、市のスポーツイベントや地域活動への参加が期待される子どもやその保護者等といった層に対しては、的確にニーズを把握しながら企画、周知を図ることが重要だと考えます。

④総合型地域スポーツクラブの数について

総合型地域スポーツクラブについては、平成29年度（2017年度）に「エンジョイ中台S.S.C」、令和2年度（2020年度）に「総合型NPO法人成田スポーツアカデミー」が設立され、本市におけるクラブ数は2クラブとなり、目標値を達成しました。

現在も、生涯にわたって誰もが気軽にスポーツ・レクリエーション活動に参加することができる環境づくりを支援しています。



総合型地域スポーツクラブってなに？



総合型地域スポーツクラブは、人々が、身近な地域でスポーツに親しむことのできる新しいタイプのスポーツクラブで、子供から高齢者まで（多世代）、様々なスポーツを愛好する人々が（多種目）、初心者からトップレベルまで、それぞれの志向・レベルに合わせて参加できる（多志向）、という特徴を持ち、地域住民により自主的・主体的に運営されるスポーツクラブだよ。うな。



（２）基本方針の評価と課題

基本方針１ スポーツで健康になろう～スポーツをおこなう機会の創出～

①個に応じたスポーツ環境の充実

市民意識調査の結果では、「スポーツを行う相手」については、「ひとりで」という回答が最も多くなっており、ライフスタイルの多様化等により、今後も個人でスポーツを行うニーズは高くなると想定されます。こうしたことから場所、年齢、相手を問わず、多様なスポーツの推進を行っていく必要があります。

また、「スポーツを行わない理由」としては、「時間がないから」を理由として挙げている方が最も多くなっており、仕事等に従事している人が多いことなどを勘案し、平日の昼間はもちろんのこと、時間を問わず行えるスポーツについても、検討していく必要があります。



ライフステージに応じたスポーツ推進が必要。

本計画の36ページに記載の **基本目標 1** へ反映していきます。

基本方針２ スポーツで楽しもう～スポーツを楽しむ場の醸成～

①きっかけづくりと実践の場の確保

市民意識調査結果では、回答者のうち３割弱が成田市内で開催されている何らかのスポーツ行事に参加していました。このスポーツイベント参加率は、前期計画開始時から比べ減少しています。多様なスポーツ大会やイベント等を開催するとともに、新たな参加を呼び掛けるため、参加を促すような情報の工夫や参加したいと思わせるようなイベントの企画が必要です。

また、同調査結果では、スポーツ活動等を行う際に欲しい情報として「大会、講座、講演会、催し物などの内容や参加方法」が最も多くなっております。市民ニーズを把握し、市民がイベント等に参加しやすくなるような工夫を行うことも求められています。



スポーツにふれあう機会の創出が必要、
スポーツを身近に楽しめる環境づくり。

本計画の36ページに記載の **基本目標 1** 及び
基本目標 2 へ反映していきます。

基本方針3 スポーツでふれあおう～スポーツを通じた交流の促進～

①スポーツを通じたコミュニティ活動の促進

市民意識調査において、既存のスポーツクラブや同好会へ加入している人の割合は20.7%で、国の全国調査の結果（15.8%）より高い水準にあることが明らかになりました。総合型地域スポーツクラブに「参加したいと思う」人の割合も3割近くいることから、スポーツクラブに対する潜在的なニーズは高いのではないかと推察されます。

しかし、計画開始時から現在まで2クラブ設立し、身近な地域でスポーツに親しむことのできる環境を提供している、総合型地域スポーツクラブに対する認知度が1割を下回り、極めて低いことも判明したため、まずは総合型地域スポーツクラブそのものの啓発活動に取り組み、同時にスポーツ団体の活動支援も必要です。



スポーツを通じたコミュニティ活動の促進、
市民のスポーツ意識の醸成が必要。

本計画の36ページに記載の **基本目標2** へ反映していきます。

②国際スポーツ交流の促進

本市は居住外国人数が多く、国際色豊かなまちであることから、スポーツを通じた国際交流の推進を図ることで、特色のあるまちづくりにつながります。市民意識調査では、市がスポーツツーリズムを推進することへの考えについては、「取り組むべき」という意見が半数を超えていました。さらに、「スポーツツーリズムの推進で望むもの」として「国際大会やスポーツイベントの交流」が上位に上がるほか、「力を入れてほしいスポーツ交流の内容」として「国内外のアスリートとの交流」が最も多くなっていることから、市民の国際交流に対する期待が高いことが伺えます。今後も、国際交流の推進と国際理解の醸成を図るための取り組みが必要です。



トップスポーツの推進、スポーツを通じた共生社会の実現、
スポーツツーリズムの推進が必要。

本計画の36ページに記載の **基本目標3** へ反映していきます。

基本方針4 スポーツでまちを築こう～スポーツ活動の基盤の充実～

①スポーツ拠点施設の整備・充実

市民意識調査の「知っている市のスポーツ施設」の設問では、半数以上の認知率がある施設は、回答の認知率が高い順番に「中台運動公園体育館」、「中台運動公園陸上競技場」、「中台運動公園野球場」、「中台運動公園プール」、「大谷津運動公園プール」、「中台運動公園テニスコート」、「大谷津運動公園野球場」の7施設となりました。

また、スポーツ施設の要望として、「駐車場・駐輪場の増設」や「レストランの併設」、「設備や器具の充実」が多く、誰もが利用しやすい施設づくりが求められているほか、計画的な改修工事にあわせバリアフリー化など、市民ニーズに応じた整備を進めていくことが重要です。



スポーツを身近に楽しめる環境づくり、
スポーツを通じた共生社会の実現が必要。

本計画の36ページに記載の **基本目標2** 及び
基本目標3 へ反映していきます。

②指導者の養成・確保

市民意識調査では、スポーツや運動に関するボランティア活動の参加意向と参加経験はそれぞれ2割台となり、経験の内訳は「スポーツ大会・イベント等の運営やお手伝い」が最も多くなっていました。

市民が気軽にスポーツボランティア活動へ参加できるように、情報発信を行うとともに、既存制度の周知、スポーツボランティアの活動機会を増やし、市民のスポーツ参加を促進することが必要です。



スポーツを通じた人と人との交流が必要。

本計画の36ページに記載の **基本目標1** へ反映していきます。

第3章

計画の基本構成

1. 計画の基本理念

スポーツで創る なりたの未来

近年の健康志向や国際的なスポーツイベントの開催などを受けて、市民のスポーツに対する関心が大きく高まっている中、スポーツを通じた健康づくり・地域づくりを推進していくことが求められています。

その様な中で、年齢、性別、国籍、障がいの有無などに関わらず、誰もが生涯にわたって気軽にスポーツに親しみ、いきいきと輝けるよう、「スポーツをきっかけとし」、人がつながり、地域がつながり、そして、「未来へとつながること」を目指して、本計画では上記理念を設定し、スポーツの振興に努めます。



2. 計画の目標

基本目標1 スポーツで、人をつなぐ

誰でもスポーツに参加できる機会をつくり、身近なスポーツ環境を整えることで、市民の健康増進、スポーツ人口の拡大と市民相互の交流を図ります。

そして、誰もが生涯にわたってスポーツ・レクリエーションを楽しめるよう、ライフステージにあったスポーツ活動の場を提供し、市民の運動習慣の定着を促す取組を進めます。

また、様々な形で市のスポーツの普及、市民のスポーツ活動の促進に携わる指導者やスポーツボランティアを育成し、市のスポーツ振興を図ります。

スポーツを通じて人と人をつなぎ、全ての市民が自分自身に合ったスポーツを楽しめる機会の創出を進めます。

基本目標2 スポーツで、地域がつながる

「スポーツは激しい運動や勝敗を競うこと」という固定概念を払拭し、誰もがいつでもどこでも気軽に楽しめるものであるというスポーツの在り方を示し、市民のスポーツ意識を醸成していきます。

また、スポーツ活動を始め、無理なく継続するためには、市民一人ひとりのニーズに合った適切な情報と、場の提供が重要です。地域のスポーツ団体や、総合型地域スポーツクラブの活動等をはじめ、地域の身近な場所で子どもから高齢者に至るまで、誰もが日常的にスポーツに親しむことができる環境を提供し、人、情報、地域の交流による地域コミュニティの活性化を図ります。

スポーツを通じて市民と地域、行政、団体、事業者等がつながることにより、地域の活性化を目指します。

基本目標3 スポーツで、未来へつなげる

現在、市では地域資源を生かしたスポーツツーリズム推進の実現に向け取組を進めています。市民意識調査によると、市民の国際交流への関心は高いものの、「スポーツツーリズム」の認知度はまだ、低く推移しておりますが、市民のスポーツツーリズムへの関心を高めることで、スポーツを基軸としたまちづくりへとつながります。

また、広く市民に障がい者スポーツを知ってもらうとともに、障がいのある方もない方も共にスポーツに親しむ機会が生まれることで、スポーツをきっかけとした、共生社会の未来へとつながっていきます。

3. 施策の体系

基本理念	基本目標	施策の方向性	主な事業
スポーツで創る なりたの未来	基本目標 1 スポーツで、 人をつなぐ	(1) スポーツにふれあ う機会の創出	①各種大会教室の開催 ②スポーツ機会の創出 ③健康づくり・運動習慣化の取組推進
		(2) ライフステージに 応じたスポーツ推進	①子ども達のスポーツ機会の充実 ②青少年・成人のスポーツ機会の充実 ③高齢者のスポーツ機会の充実
		(3) スポーツを通じた 人と人との交流	①スポーツボランティアの人材育成 ②スポーツ指導者の人材育成 ③スポーツ推進委員との連携
	基本目標 2 スポーツで、 地域がつながる	(1) スポーツを通じたコ ミュニティ活動の促進	①スポーツ団体の活動支援 ②総合型地域スポーツクラブの活用 ③スポーツを通じた多文化共生理解
		(2) スポーツを身近に 楽しめる環境づくり	①スポーツ施設の充実 ②各種媒体による情報の充実 ③学校体育施設の活用
		(3) 市民のスポーツ意 識の醸成	①地域間スポーツ交流の促進 ②広報活動によるスポーツ機運の向上 ③スポーツそのものの捉え方に関する意識改革
	基本目標 3 スポーツで、 未来へつなげる	(1) スポーツツーリス ムの推進	①市民のスポーツツーリズムの意識向上 ②大規模スポーツイベントの誘致 ③スポーツを通じた国際交流機会の創出
		(2) スポーツを通じた 共生社会の実現	①パラスポーツの普及推進 ②オリ・パラを契機とした取り組み ③スポーツ施設バリアフリー化への取り組み
		(3) トップスポーツの 推進	①トップスポーツチームと連携した取り組み ②大学と連携した取り組み ③選手の競技力の向上

4. 数値目標

スポーツ振興マスタープランでは、基本理念の実現に向けて次の3つの数値目標を設定します。

	数値目標	概要	対応する 基本目標	現状値	目標値
①	週1回以上スポーツ実施率 ※成田市民のスポーツに関する意識調査	老若男女、障がいの有無を問わず、週に1回以上スポーツに親しむ機会の充実に努めることで、市民の健康維持、生活環境の向上を目指します。	基本 目標 1	33.7%	65.0%
②	スポーツイベント参加率 ※成田市民のスポーツに関する意識調査	スポーツイベントへの参加を通じて、世代を超えた交流を促進するとともに、地域の活性化を図ります。	基本 目標 2	28.6%	50.0%
③	市民のスポーツツーリズム認知度 ※成田市民のスポーツに関する意識調査	地域資源とスポーツを融合した観光を楽しむツーリズムスタイルの定着化を図り、市民と一体的にスポーツツーリズムを推進します。	基本 目標 3	7.3%	50.0%

※成田市民のスポーツに関する意識調査（一般調査）を基に算出し、設定しております。

数値設定理由

①週1回以上スポーツ実施率

週1回以上スポーツ実施率については、国の第2期基本計画にも政策目標として掲げられていることから、第2次成田市生涯スポーツマスタープランに引き続き目標として設定します。数値については、国の第2期基本計画も65%と設定していることから、同数値とします。

②スポーツイベント参加率

スポーツイベントの目標として前計画から引き続き、数値も同値とし、推移を注視します。

③市民のスポーツツーリズム認知度

市民のスポーツツーリズム認知度については、現状は、7.3%と低い推移であることから、市民の半分の方は認知しているという状況を目指すため、50%を目標数値と設定します。

第4章

具体的な施策展開

基本目標1 スポーツで、人をつなぐ

施策の方向性(1) スポーツにふれあう機会の創出

学生から社会人への変化をはじめ、大きくライフスタイルが変わる成人期では、仕事、家事、育児等で多忙となり、市民意識調査の結果でも、週に1日以上スポーツをしている人の割合は、全体の3割強にとどまっています。

多種多様なライフスタイルに合わせ、どの年代でも参加できるスポーツイベント等を実施し、参加機会の充実や、スポーツ実施率の向上を図ります。

さらに、現在スポーツをしていない人たちが、スポーツに対して興味・関心を持ち、スポーツ活動に参加できるよう、スポーツ体験の機会を充実させ、そのきっかけづくりに努めます。

主な事業

①各種大会教室の開催

No.	事業項目	今後の取り組み	担当所管
1	成田スポーツフェスティバル等各種大会の開催	成田スポーツフェスティバルや小学生相撲大会、近隣中学校野球大会など規模や参加対象も大小様々な大会を開催し、多くの方がスポーツにふれあう機会を設けます。	スポーツ振興課

②スポーツ機会の創出

No.	事業項目	今後の取り組み	担当所管
2	各種スポーツイベントの開催支援	スポーツ施設の指定管理者が実施する自主事業や一般社団法人成田市スポーツ協会が実施する教室の周知や支援を行い、スポーツにふれあう機会の充実に努めます。	スポーツ振興課

③健康づくり・運動習慣化の取組推進

No.	事業項目	今後の取り組み	担当所管
3	成人高齢者体力・運動能力調査の実施	体力・運動能力の調査を通じ、自己の体力を認識することで、健康・体力づくりへの関心を高めます。	スポーツ振興課
4	健康・福祉まつりの開催	健康・福祉まつりを通して健康づくりに関する意識・関心を高める機会を作り、市民の健康診断・体力測定を充実させます。	健康増進課

施策の方向性(2) ライフステージに応じたスポーツ推進

子どもから高齢者まで、年齢層にあったスポーツの普及に取り組み、競技志向に加えて、心身の健康増進を意識しながら手軽に取り組めるスポーツの推進や生涯にわたり楽しみながらスポーツができる環境づくりが必要です。

市民の誰もがそれぞれの体力や技術、興味、目的に応じて、生涯にわたり楽しくスポーツ活動に親しむことができるよう、世代ごとのレベルやニーズに応じたスポーツ・レクリエーション活動を推進します。

主な事業

①子ども達のスポーツ機会の充実

No.	事業項目	今後の取り組み	担当所管
5	成田市スポーツ少年団の活動の推進	スポーツ少年団活動を通じ、子ども達が日常的にスポーツに触れ合う機会の充実に努めます。	スポーツ振興課
6	子どもの居場所づくりの推進	成田わくわくひろば実施協議会の活動の推進を通じ、子ども達が興味・関心のある体験活動や各種スポーツ体験を実施します。	生涯学習課
7	放課後子ども教室運営の推進	放課後や週末等に小学校の余裕教室や校庭等を活用して、子どもたちの安全・安心な活動拠点を設け、地域の参画を得て、子どもたちとともに学習やスポーツ・文化活動、地域住民との交流活動の充実に努めます。	生涯学習課

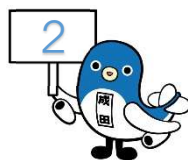
②青少年・成人のスポーツ機会の充実

No.	事業項目	今後の取り組み	担当所管
8	青少年育成団体の活動支援	青少年育成団体の活動に助成・支援を行うことにより、地域における青少年活動を活発にし、スポーツを通じた健全育成を目指します。	生涯学習課
9	成人のスポーツ機会充実に係る取り組み	ジョギングやウォーキング等の誰もが手軽に行えるスポーツの推進を通じて、時間のない社会人の方々もスポーツに触れることができる機会の充実に努めます。	スポーツ振興課

③高齢者のスポーツ機会の充実

No.	事業項目	今後の取り組み	担当所管
10	成田市レクリエーション協会の活動の推進	レクリエーションの普及振興を図ること で、余暇生活の充実に努めるとともに、 高齢者の方々の健康維持や体力の向上を図 ります。	スポーツ振興課
11	高齢者クラブの活動 の推進	ゲートボール大会、グラウンドゴルフ大会 等を行い会員相互の交流と健康づくりに 取り組む高齢者クラブに対し、高齢者の生 きがい活動を支援します。	高齢者福祉課

＜スポーツ少年団駅伝交流大会の様子＞



スポーツ少年団の登録団体ってどれくらいあるの？



成田市には、令和3年(2021年)現在、全部で35の団体が登録されているよ。軟式野球、ミニバスケットボール、剣道、サッカー、バレーボール、空手、ハンドボール、ラグビーと、様々な種目のチームが活動しているよ。

毎年、冬には、各チーム対抗の駅伝交流大会が開催されて、中台運動公園が熱気に包まれるよ。

スポーツ少年団に入団してみたいけど迷っている子は、気軽に参加してね。うな。



施策の方向性(3) スポーツを通じた人と人との交流

市民がスポーツ活動を継続するためには、誰もがいつでも気軽に参加できるスポーツ機会と、それを適切に指導する指導者やその運営を支援するスポーツボランティアなどの支える人材が必要です。

多くの市民がスポーツに親しみ、楽しく取り組み、継続できるよう、正しい知識と技能を備えた指導者やボランティア等の支える人材の育成と活用に努めます。

また、スポーツ推進委員が地域において円滑に活動できるよう、組織体制の充実や活動の支援に努めます。

主な事業

①スポーツボランティアの人材育成

No.	事業項目	今後の取り組み	担当所管
12	スポーツツーリズム人材バンクの活用	スポーツツーリズムを支えるため開設された、様々なノウハウを持った方々から構成される「スポーツツーリズム人材バンク」を活用し、スポーツボランティアの充実を図ります。	スポーツ振興課

②スポーツ指導者の人材育成

No.	事業項目	今後の取り組み	担当所管
13	スポーツ指導者への支援	市民が求める技術・能力を提供できる人材を育成し、安全なスポーツ活動を行うため、資格取得支援や講習会参加支援を通し、スポーツ指導者の資質向上を図ります。	スポーツ振興課

③スポーツ推進委員との連携

No.	事業項目	今後の取り組み	担当所管
14	成田市スポーツ推進委員連絡協議会との連携	市民スポーツの発展に寄与することを目的として組織された、成田市スポーツ推進委員連絡協議会と連携し、協力体制を密にしながら、各種事業を行います。	スポーツ振興課

基本目標2 スポーツで、地域がつながる

施策の方向性(1) スポーツを通じたコミュニティ活動の促進

市内では、2つの総合型地域スポーツクラブをはじめ、スポーツ協会、スポーツ少年団やそれらに加盟する連盟・協会・チームといったさまざまな団体がスポーツ活動を行っています。

市民が所属するクラブ・団体の組織力を強化し、クラブ・団体の育成を通じて、市民のスポーツ活動の充実を図ります。

そして、身近な地域での定期的、継続的なスポーツ活動を推進するため、総合型地域スポーツクラブ活動の推進を図り、クラブへの加入を促進します。

また、市内に居住する外国人の方とのスポーツを通じた多文化共生への理解に努めます。

主な事業

①スポーツ団体の活動支援

No.	事業項目	今後の取り組み	担当所管
15	一般社団法人成田市スポーツ協会への活動支援	本市におけるスポーツの中心組織として活動し、様々な地域及び競技種目により構成される加盟団体が所属する一般社団法人成田市スポーツ協会へ支援を行うことで、市民スポーツの普及・振興に努めます。	スポーツ振興課

②総合型地域スポーツクラブの活用

No.	事業項目	今後の取り組み	担当所管
16	総合型地域スポーツクラブ活動の推進	総合型地域スポーツクラブの活動により、スポーツを通じた住民同士の交流など様々な相乗効果が期待されることから、スポーツを通じた地域活性化のモデルケースとなるための積極的な支援に努めます。	スポーツ振興課

③スポーツを通じた多文化共生理解

No.	事業項目	今後の取り組み	担当所管
17	スポーツを通じた多文化共生理解の推進	性別や国籍に関わらずスポーツに親しむことができる環境を目指して、スポーツを通じた多文化共生理解への取り組みに努めます。	スポーツ振興課

施策の方向性(2) スポーツを身近に楽しめる環境づくり

市内には中台運動公園をはじめ、多くのスポーツ施設が設置されています。市民が身近にスポーツを行うことができる場の整備・充実に努めます。

さらに、市ホームページなど、市政情報の広報メディアを利用するとともに、SNS等口コミ効果の高いメディアを活用して、市民に分かりやすい情報の提供に努めます。

また、教育委員会と連携することで、地域住民へ開放する学校体育施設の情報を集約し、より多くの市民が利用できるように有効活用を図ります。

主な事業

①スポーツ施設の充実

No.	事業項目	今後の取り組み	担当所管
18	各種スポーツ施設管理運営	誰もが利用しやすい施設を目指して、指定管理者制度の活用を図りながら、適正な施設管理運営に努めます。	スポーツ振興課 環境衛生課 公園緑地課 市民協働課
19	スポーツ施設の整備によるスポーツ環境の充実	旧東小学校跡地を活用し、健康増進への寄与、地域の活性化を図るため、クラブハウスを併設した36ホールからなるパークゴルフ場の整備を進めるとともに、中台運動公園水泳プールの多目的な通年利活用を含め、スポーツ施設の整備に努めます。	公園緑地課 スポーツ振興課

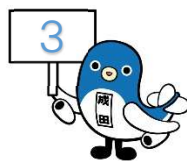
②各種媒体による情報の充実

No.	事業項目	今後の取り組み	担当所管
20	まなび&ボランティアサイトの活用	サイトを活用し、SNSと連携させながら、登録されているスポーツ団体の練習会や団員募集などの情報を発信します。	生涯学習課
21	各種SNSを使った情報発信	市SNS等を活用し、市内で開催されるスポーツ大会やイベント、施設情報等の発信を行います。	スポーツ振興課 観光プロモーション課 広報課

③学校体育施設の活用

No.	事業項目	今後の取り組み	担当所管
22	学校体育施設の開放	市民にとって身近なスポーツ・レクリエーション活動の場である公立小中義務教育学校の体育施設の開放を積極的に行い、スポーツの普及・啓発に努め、市民がスポーツに親しみやすい環境づくりを推進します。	スポーツ振興課

うなコラム



市内にはどんなスポーツ施設があるの？



成田市には、野球場、プール、テニスコート、陸上競技場、球技場はもちろん、県内でも珍しい相撲場やパークゴルフ場、スケートボードパークなど、たくさんのスポーツ施設が充実しているよ。施設の一覧は、資料編に記載されているよ。

令和2年（2020年）に完成したばかりの中台運動公園水泳プールの多目的な通年利活用についても、市民のみんなのために整備を考えていくから楽しみにしていてね。うな。



上の写真は、旧豊住中学校跡地を利用して平成29年（2017年）に開館した、「豊住ふれあい健康館」だよ。

館内には、トレーニング室からカラオケのできる多目的室まで整備されていて、地域の方々に愛される施設として生まれ変わったんだよ。

旧東小学校跡地はどのようなパークゴルフ場になるんだろうね。楽しみだね。うな。

施策の方向性(3) 市民のスポーツ意識の醸成

スポーツとは激しい運動や勝敗を競う競技スポーツであると捉えている人も多く、スポーツに取り組むことへの1つのハードルとなっています。日常生活の中で簡単にできるウォーキングや階段昇降等の生活活動や運動等もスポーツであると捉えることで、スポーツが生活に身近なものであるという意識の改革を図ります。

また、市民一人ひとりが自主的、主体的にスポーツを「する」ことによる健康づくり、スポーツを「みる」ことによる感動づくり、スポーツを「ささえる」ことによる絆づくりができる市の実現を目指し、地域を代表してスポーツ行事に参加することにより育まれる交流を行う中で、スポーツを通じて、人生を健康でいきいきと楽しむことができる意識の醸成を図ります。

主な事業

①地域間スポーツ交流の促進

No.	事業項目	今後の取り組み	担当所管
23	千葉県東部五市体育大会、千葉県民体育大会の開催	千葉県東部五市体育大会や千葉県民体育大会の開催を通し、市民の体力の向上を図り、各市町村相互の親睦を深めるとともに、市を代表して大会に参加することで、スポーツ意識の醸成に繋がります。	スポーツ振興課

②広報活動によるスポーツ機運の向上

No.	事業項目	今後の取り組み	担当所管
24	広報誌、ホームページ等を活用した広報活動	市内で開催されるスポーツ教室やスポーツイベント等の情報を、広報なりたや市ホームページ等を活用して提供します。	スポーツ振興課 広報課

③スポーツそのものの捉え方に関する意識改革

No.	事業項目	今後の取り組み	担当所管
25	健康教育・健康教室の開催	日常生活に簡単な運動を取り入れる方法を学んでもらい、健康意識の向上及び生活習慣改善を図ります。	健康増進課
26	介護予防に係る取り組み	日常生活での体操や簡単な運動を行う教室の開催等を通し、介護予防に効果のある運動の習慣化を図ります。	介護保険課

基本目標 3 スポーツで、未来へつなげる

施策の方向性(1) スポーツツーリズムの推進

「スポーツツーリズム」とは、スポーツ資源とツーリズム（旅行・観光）資源を融合する取り組みのことであり、スポーツツーリズムの推進により、豊かな観光資源の創造、新しいビジネスの創出、地域の活性化などを目指そうとするものです。

世界・全国規模の大会やプロスポーツの試合の誘致、大規模スポーツイベント等の事前キャンプの受入れ等に取り組み、体制の整備を図りながら、地域資源を活用したスポーツツーリズムの推進を行います。

主な事業

①市民のスポーツツーリズムの意識向上

No.	事業項目	今後の取り組み	担当所管
27	地域スポーツコミッション組織によるスポーツツーリズムの推進	スポーツツーリズムに係る情報共有及び連携した取り組みを行う基幹的な推進組織として設立された「成田市スポーツツーリズム推進協議会」が中心となり、スポーツ資源、観光資源を活用した新たな需要を創出し、官民一体的な地域活性化を目指します。	スポーツ振興課
28	アメリカ合衆国、アイルランドとの交流に係る取り組み	ホストタウンへの登録を契機とし、アメリカ合衆国、アイルランドを交流の相手方とし、様々な交流を図りながら、スポーツ・観光・文化の観点から相互理解を深めます。	スポーツ振興課
29	スポーツツーリズム機運醸成イベントの開催	各企業、自治体協力によるスポーツツーリズム機運醸成イベントの開催を行うなど、スポーツ・観光・文化の多種多様なコンテンツを市民に提供し、成田エリア全体での地域連携、地域活性化を目指します。	スポーツ振興課
30	市民参加型大規模スポーツイベントの開催	ランニング愛好家が参加するマラソン大会など、全国から参加者を募る大会を開催することで、大会後に市内観光を楽しんでいただける取り組みを進めます。	スポーツ振興課

②大規模スポーツイベントの誘致

No.	事業項目	今後の取り組み	担当所管
31	各種大会の誘致	世界規模の大会や全国大会、パラスポーツ大会など、大小様々な大会を誘致することで、スポーツを観戦する機会を多くの市民に提供します。	スポーツ振興課

③スポーツを通じた国際交流機会の創出

No.	事業項目	今後の取り組み	担当所管
32	友好・姉妹都市との交流	関係機関と連携して、友好・姉妹都市とのスポーツによる交流を進めていきます。	文化国際課

<成田POPラン大会の様子>



スポーツツーリズムってもっと簡単に教えて？



「スポーツツーリズム」は、簡単に言うと、スポーツを目的に成田市に来てもらったら、そのついでに、市内でうなぎを食べて観光を楽しんでもらったり、宿泊してもらったりする、一石二鳥の取り組みのことだよ。

毎年、成田市内で開催される成田POPラン大会も全国からランナーのみんなが来てくれて、帰りに観光を楽しんでくれているよ。うな。



施策の方向性(2) スポーツを通じた共生社会の実現

さまざまなスポーツの広がりとともに、障がいの有無に関わらず、全ての市民がスポーツ・レクリエーション活動を楽しむことができる環境が求められています。障がいのある方も、スポーツ・レクリエーションを通じて心と体が豊かになれるスポーツ活動の拡充に取り組みます。

そのため、障がいのある方も参加しやすいスポーツ事業の開催や、障がいのある方が安心・安全に施設を利用できるようバリアフリー化を図り、障がいのある方とない方が一緒にスポーツを行うことができる環境を通し、スポーツを通じた共生社会の実現を目指します。

主な事業

①パラスポーツの普及推進

No.	事業項目	今後の取り組み	担当所管
33	パラスポーツの推進	パラスポーツの体験会などを行い普及啓発することにより、健常者には障がいへの理解を深めてもらい、障がいのある方にはスポーツに触れる機会を提供し、一緒にスポーツができる環境の充実を目指します。	スポーツ振興課 障がい者福祉課
34	千葉県障害者スポーツ大会への参加	一般社団法人千葉県障がい者スポーツ協会が主催する、県内最大の障がい者スポーツの祭典である「千葉県障害者スポーツ大会」への参加を通し、パラスポーツの普及推進に努めます。	障がい者福祉課

②オリ・パラを契機とした取り組み

No.	事業項目	今後の取り組み	担当所管
35	アイルランドとの共生社会実現に係る取り組み	千葉県内で初となる共生社会ホストタウンへ登録されたことに伴い、ハード、ソフト両面からバリアフリー化に取り組みます。	スポーツ振興課

③スポーツ施設バリアフリー化への取り組み

No.	事業項目	今後の取り組み	担当所管
36	各スポーツ施設バリアフリー化に係る取り組み	改修等に併せバリアフリー化を推進し、障がいの有無に関わらず、誰もが利用できるスポーツ施設の充実に努めます。	スポーツ振興課

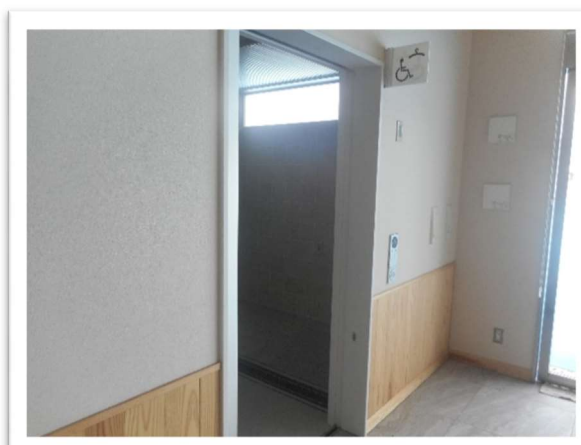
<中台運動公園水泳プール管理棟のバリアフリー化の様子>



【廊下手すり】



【車いす更衣室シャワー】



【車いす更衣室入口】



【床点字】

施策の方向性(3) トップスポーツの推進

トップスポーツを活性化し、競技スポーツを観る人のスポーツ人口の拡大をはじめ、本市の魅力向上や活性化のために、ホームタウンパートナーチームの支援と協働を推進します。

ホームタウンパートナーチームが参戦するトップリーグなどの試合の誘致に努めるとともに、トップスポーツチームと連携し、子ども達など市民に向けて、スポーツの楽しさや喜び、感動を直接感じることができる機会の提供に努めます。

さらに、本市の子ども達がトップアスリートを間近に見たり、スポーツ教室等の交流事業でトップアスリートと触れ合うことにより、本市の競技力向上や競技人口の拡大を図っていきます。

また、大学等と連携して、スポーツを通じた交流等に取り組むほか、選手の競技力の向上の一助となる支援にも努めます。

主な事業

① トップスポーツチームと連携した取り組み

No.	事業項目	今後の取り組み	担当所管
37	千葉ロッテマリーンズとの連携協定	成田市のロゴを掲出して開催される「ALL for CHIBA 成田市」を始め、プロ野球を身近に感じられる取り組みを進めます。	スポーツ振興課
38	鹿島アントラーズとの連携協定	熱気溢れるスタジアムに市民が招待・優待される「フレンドリータウンデイズ成田の日」を始め、サッカーの魅力を伝えられる取り組みを進めます。	スポーツ振興課
39	クボタスピアーズとの連携協定	成田市での公式戦の開催や児童・生徒との交流事業を始め、市民がラグビーフットボールを身近に感じられる取り組みを通じて、地域振興・地域貢献を進めます。	スポーツ振興課

②大学と連携した取り組み

No.	事業項目	今後の取り組み	担当所管
40	順天堂大学との連携	順天堂大学に所属する各種部活動の選手を講師として派遣いただくスポーツ教室を開催することで、中学生が優秀な選手達に触れる機会を設けます。	スポーツ振興課
41	国際医療福祉大学との連携	各種大会開催時に医療スタッフのボランティアを派遣いただくことで、市民が安心・安全に参加できるイベントの運営に努めます。	スポーツ振興課

③選手の競技力の向上

No.	事業項目	今後の取り組み	担当所管
42	競技力向上事業国内外遠征激励費の支給	市民が、海外及び国内全国大会規模以上で開催される公式競技会等に参加する場合に激励費を支給することで、選手の競技力の向上に努めます。	スポーツ振興課

＜クボタスピアーズとの連携協定調印式 令和2年（2020年）9月17日 ＞





パラスポーツについて教えて？



障がいのある方達に親しまれているパラスポーツは、多種多様な種目があるけれど、どれくらいの種目を知っているかな？パラスポーツを少しだけ紹介するね。

ちなみに、「パラリンピック」という言葉は、ギリシア語の接頭語であるパラ=Para（沿う、並行）+Olympic（オリンピック）に由来するよ。知っていたかな？うな。

（日本パラリンピック委員会HPより）



○ゴールボール

鈴の入ったバスケットボール大のボールを互いに投げ合い、得点を競うチームスポーツだよ。

コート上の選手は3人対3人で、選手は障がいの程度に関わらず、「アイシェード」と呼ばれる目隠しを装着して、全盲状態でプレーするよ。

試合時間は前後半各12分の計24分で競い合うスポーツだよ。うな。

○ボッチャ

「ジャックボール」と呼ばれる白いボール（目標球）を投げた後、対戦する両者がそれぞれ赤と青の6球を投げ合い、自球をよりジャックボールに近づけたチーム又は個人が勝者となるよ。

手で投げられない選手はキック、あるいは競技アシスタントのサポートを受けながら、「ランプ」と呼ばれる投球補助具（勾配具）を使ってボールを転がすこともできるんだよ。うな。



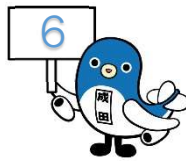
○5人制サッカー

視覚障がい（全盲）のある選手がプレーする5人制のフットボールで、フィールドプレーヤー4人はアイマスクを装着し、転がると音の鳴るボールをドリブルやパスでゴールまで運ぶよ。

選手達は、敵陣のゴール裏で味方にゴールの位置と距離などを伝える「ガイド」や「ゴールキーパー」、「監督」達の声を聞きながらプレーするよ。うな。

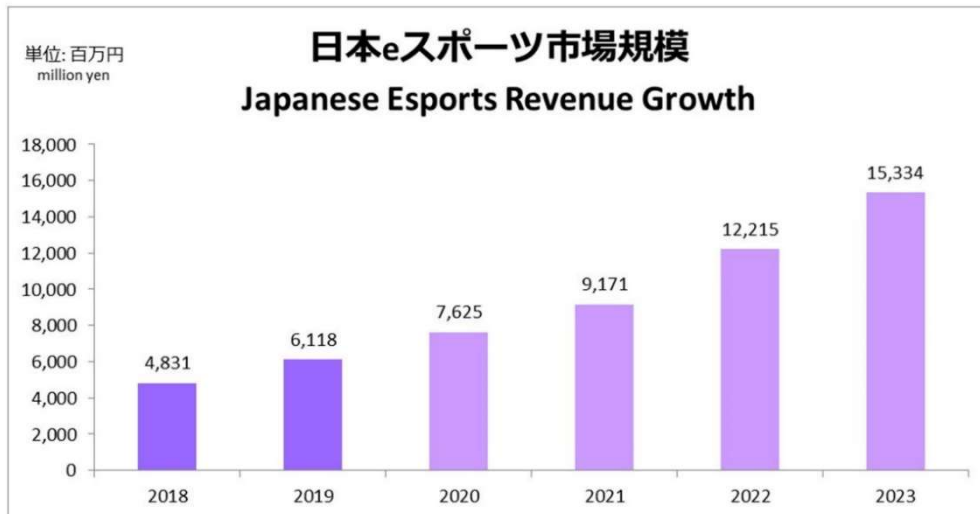


（日本財団 パラリンピックサポートセンターHPより）



eスポーツってなに？

令和元年（2019年）の国内eスポーツ市場規模は、**61.2億円**



出典: KADOKAWA Game Linkage

※2020 年以降の数値は、2020 年 2 月時点での予測



近年注目を集める、「eスポーツ(esports)」とは、「エレクトロニック・スポーツ」の略で、広義には、電子機器を用いて行う娯楽、競技、スポーツ全般を指す言葉で、コンピューターゲーム、ビデオゲームを使った対戦をスポーツ競技として捉える際の名称だよ。

ただ、スポーツ活動と捉えるのか、文化活動と捉えるのかは、今後の動向を注視していく必要があるんだ。

主なゲームジャンルは、キャラクター目線のシューティングゲーム、リアルタイムで複数名が参加する陣取り合戦、野球やサッカーなどスポーツ系のものが挙げられるよ。

今、eスポーツは世界中で盛り上がりを見せていて、近年、日本でも注目されているよ。eスポーツにおける世界市場は令和2年(2020年)に1,400億円超に達する見通しで、その規模は年々拡大しているよ。



国内においては、「未来投資戦略2018」にクールジャパンの一環として記載され、「新たな成長領域として注目されるeスポーツについて、健全な発展のための適切な環境整備に取り組む。」とされているよ。うな。

第5章

計画の推進に向けて

1. 推進体制

本計画は、市を中心に、庁内関係各部署やスポーツ関係団体等と密接に連携し、スポーツに関する施策を総合的に推進します。このため、必要に応じて協議の場を設け、計画の進捗管理やスポーツ推進に関する施策の情報共有等を行います。

また、市民のスポーツ参加を積極的に推進するために設置された「成田市生涯学習推進協議会」をはじめ、スポーツ推進に関わる各種団体・関係機関、事業所等との連携のもと、本計画の普及・推進をします。

2. 計画の進行管理

本計画に基づく施策を総合的・計画的に推進するためには、計画の進捗状況について、定期的に調査・把握をし、達成状況をチェックする必要があります。

そのため、計画(P l a n)、実施(D o)、評価(C h e c k)、見直し(A c t i o n)というマネジメントサイクルを踏まえP D C Aサイクルを確実に行之、計画の着実な推進をめざしていきます。

(1) 計画(P l a n)

本計画の策定に際し掲げられた市の現状・課題や今後の目標について、進行管理を行いながら、目標設定や取り組みを「計画」します。

(2) 実施(D o)

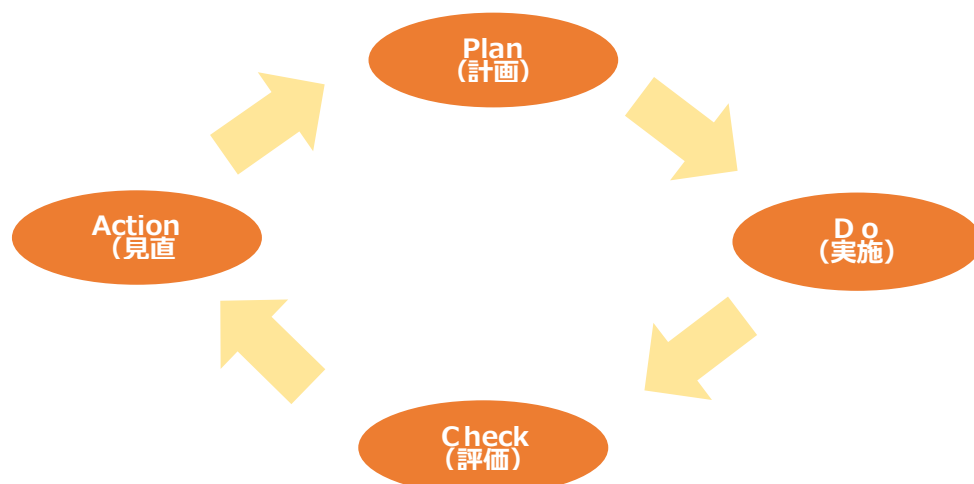
本計画にて設定した3つの数値目標を達成するための各種スポーツ推進施策について、適宜、施策の進捗状況や達成状況、成果を確認し、検証することで、目標に向けた計画の進行管理を「実施」します。

(3) 評価(C h e c k)

策定後、計画期間の中間年度に市民意識調査を実施し、令和元年度に実施した市民意識調査結果から目標数値の推移を確認することで、計画の「評価」を行います。

(4) 見直し(A c t i o n)

市民意識調査結果の数値目標の評価や本計画に掲げた施策の進捗状況評価等の内容を踏まえ、計画最終年度に、計画の「見直し」を含む改定作業を行います。



3. 各主体の役割

スポーツ推進を図り、誰もが生涯にわたって気軽にスポーツに親しみ、楽しめるまちを実現していくためには、市民・関係団体・民間事業者・行政等の各主体が連携・協働した、市民総参加による取り組みが必要となることから、各主体それぞれの役割を行い、計画の推進に努めます。

（１）市民の役割

スポーツ振興の主役として、スポーツに対する関心及び理解を深め、自らの健康の保持・増進に努めます。

また、ライフステージに応じたスポーツ活動に積極的に参加していくことが期待されます。

（２）スポーツ・レクリエーション関係団体の役割

行政などでは補えないスポーツにふれる機会の提供を目指し、多世代が楽しめる各種スポーツ教室の開催やイベントの開催などが期待されます。また、スポーツクラブ等においては、団体の特性によってはボランティア等の地域の人材を活用しながら自立・継続した運営が期待されます。

（３）民間事業者等の役割

地域社会の構成員であるという自覚のもと、企業や事業者等が有する施設・設備や人材・情報などを可能な範囲で、地域のスポーツ活動に提供していくことが期待されます。また、スポーツ、観光資源を活用した新たな需要の創出を行うため、行政と連携した役割も重要となります。

（４）スポーツ推進委員の役割

地域住民に対し、スポーツの実技の指導、その他スポーツに関する指導、助言を行います。また、行政や市民のパイプ役となり、日頃スポーツをしない人への動機付けやスポーツの楽しみ方の啓発などを通じて本計画の推進を図っていく役割が期待されます。

（５）成田市の役割

市は、全ての市民が充実したスポーツ環境にふれることができるよう、スポーツ施策を総合的・一体的に推進します。そのためには、各主体の役割を踏まえながら、スポーツにふれあう機会の創出、スポーツ施設の改修など、スポーツの基盤整備に努め、市民ニーズを的確に把握しながら施策を推進します。

成田市スポーツ振興マスタープラン

発行：成田市

編集：シティプロモーション部
スポーツ振興課

住所：〒286-8585

千葉県成田市花崎町760番地

TEL：0476-20-1584

発行年月：令和3年3月

登録番号：成ス〇〇